

## 条件付き一般競争入札（事後審査方式）の公告

公告日	令和3年8月18日	
工事番号	都建第45号	
工種	土木	
工事名	市道埴生東蟹谷線瑞穂橋補修工事	
施工場所	小矢部市 平田 地内	
工事完成期限	令和3年12月28日	
工事概要	施工延長 L=45.80m、W=6.50m ひびわれ充填工 L=0.15m、ひびわれ注工 L=91.10m 断面修復工(鉄筋露出あり) V=0.12m <sup>3</sup> 排水装置補修工 N=2箇所 表面保護工 A=333.6m <sup>2</sup> 、再塗装工 A=49.4m <sup>2</sup> 、鋼断面補修工 A=5.2m <sup>2</sup>	
予定価格	15,600,000 円(消費税及び地方消費税相当額を除く)	
低入札調査基準価格	設定有り 当該基準価格を下回る入札が行われた場合は、落札者の決定を保留し、後日、入札参加者に結果を通知する。	
入札参加資格	本店、支店又は 営業者の所在地	・小矢部市内に主たる営業所を有する者 ・準市内業者に認定された者
	等級又は総合評価 値	・令和3・4年度小矢部市建設工事入札参加資格者名簿の 土木工事において、A等級又はB等級に登録されている者
	その他	・小矢部市条件付き一般競争入札実施要領第3条
入札方法	期間入札	
入札書の提出方法	持参又は郵送	
入札書の提出期間	令和3年8月23日 から 令和3年8月30日 まで 持参の場合の受付時間は市役所開庁日の8時30分～17時15分 郵送の場合は、期日内に指定郵便局必着	
入札書の提出先	総務部財政課	
開札日時	令和3年9月1日 9時24分	
開札場所	小矢部市役所 講堂（4階）	
入札保証金	免除	
契約保証金	納付必要（請負代金額が500万円以上の場合）	
積算内訳書	要（入札時に、入札書と同封して提出）	
入札の無効	小矢部市期間入札実施要領第7条による	
設計図書の配布	小矢部市ホームページ「事業者向け」―「入札案内・資格申請」に掲載 する設計図書を、ダウンロードにより取得する。	
設計図書に対する質問期間	令和3年8月25日	
質問に対する回答期限	令和3年8月27日	

令和 3 年 度

都 建 第 45 号

市道埴生東蟹谷線瑞穂橋補修工事

工事実施設計書

小 矢 部 市

# 設 計 書

小矢部市

平田

地内

## 市 道 埴 生 東 蟹 谷 線 瑞 穂 橋 補 修 工 事

設計額 ￥ . 一

第 4 5 号	工 事  大 要	施工延長	L	=	45.80 m				
		幅員	W	=	6.50 m				
		ひびわれ充填工	L	=	0.15 m	表面保護工	A	=	333.6 m <sup>2</sup>
		ひびわれ注入工	L	=	91.1 m	再塗装工	A	=	49.4 m <sup>2</sup>
		断面修復工(鉄筋露出あり)	V	=	0.12 m <sup>3</sup>	鋼断面補修工	A	=	5.2 m <sup>2</sup>
		排水装置補修工	N	=	2 箇所				

## 特記仕様書

工事名：市道埴生東蟹谷線瑞穂橋補修工事

### 第1条 一般

この特記仕様書は、「土木工事共通仕様書（富山県土木部）令和2年10月」によるものとし、第1編共通編1-1-2第6項に基づき、本工事に必要な事項について定めるものとする。

本工事の施工にあたっては、共通仕様書及び特記仕様書の他、これに付随する関係基準書等に基づいて適正に施工すること。

### 第2条 現場代理人の工事現場における常駐を要しない機関

- 次のいずれかに該当し、かつ、発注者との連絡体制が確保されると認められた場合には、工事現場における常駐を要しない期間として取り扱うものとする。
  - ① 契約締結後、現場事務所の設置、資機材の搬入又は仮設工事等が開始されるまでの期間
  - ② 工事の全部の施工を一時中止している期間
  - ③ 橋梁、ポンプ、ゲート、エレベーター等の工場製作を含む工事であって工場製作のみが行われる期間
- 前項の期間を確認する必要がある場合は、書面によることとする。

### 第3条 工事材料の確認

材料については、監督員の段階確認を受けて使用するものとする。

### 第4条 建設リサイクル法の対象工事

- 本工事は、「建設工事に係る資源の再資源化に関する法律」（以下「建設リサイクル法」という。）の対象工事であり、特定建設資材について分別解体等及び再資源化等を実施するものとする。
- 請負者は建設リサイクル法第12条に基づき、施工計画書に以下の内容を明記し、監督員に説明するものとする。
  - ・解体工事である場合は、解体する建築物等の構造
  - ・建築工事等である場合は、使用する特定建設資材の種類
  - ・工事着手の時期及び工程の概要
  - ・分別解体等の計画
  - ・解体工事である場合は、解体する建築物等における建築資材量の見込み

- 3 本工事における特定建設資材（コンクリート、鉄及びコンクリートからなる建設資材、アスファルト・コンクリート）の分別解体等・再資源化については、以下の積算条件を設定しているが、工事請負契約書「6 解体工事に要する費用等」に定める事項は契約締結時に発注者と請負者の間で確認されるものであるため、発注者が積算上条件明示した以下の事項と別の方法であった場合でも変更の対象としない。

ただし、工事発注後に明らかになった事情により、予定した条件によりがたい場合は監督員と協議するものとする

(1) 分別解体等の方法

工程ごとの作業内容及び解体方法	工程	作業内容	分別解体等の方法 (解体工事のみ)
	仮設	仮設工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	土工	土工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	基礎	基礎工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	本体構造	本体構造の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	本体付属品	本体付属品の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用
	その他 (既設構造物撤去)	その他の工事 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 手作業 <input type="checkbox"/> 手作業・機械作業の併用

(2) 再資源化等をする特定建設資材廃棄物の種類及び再資源化施設の場所

特定建設資材廃棄物の種類	処理量
コンクリート塊	—
アスファルト塊	—
建設発生木材	—

※上記(2)については積算上の明示条件であり、再資源化施設を特定するものではない。なお、請負者の提示する施設と異なる場合においても、設計変更の対象としない。ただし、施設の受け入れが困難な場合等、請負者の責によるものでない事項については、この限りではない。

4 請負者は、特定建設資材の分別解体等・再資源化等が完了したときは、建設リサイクル法 18 条に基づき、以下の事項を書面に記載し、監督員に報告する。なお、書面は、「建設リサイクルガイドライン（富山県土木部）平成 14 年 6 月」に定めた様式 1「再生資源利用計画書（実施書）」及び様式 2「再生資源利用促進計画書（実施書）」に兼ねるものとする。

- ・再資源化が完了した年月日
- ・再資源化を行った施設の名称及び所在地
- ・再資源化に要した費用

5 請負者は、再資源化施設において適正に処分されていることが確認できる書類（マニフェスト）を監督員に提示するとともに、運搬・処理を委託する場合は、産業廃棄物処理業者との委託契約書に提示するものとする。

#### 第5条 舗装切断作業時に発生する排水の処理

舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する排水については、排水吸引機能を有する切断機械等により回収するものとする。回収された排水については、適正に処理するものとし、必要な経費については、監督員の協議の上、設計変更の対象とする。

ここで、「適正に処理」する際には、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき、産業廃棄物の排出事業者（受注者）が産業廃棄物の処理を委託する際、適正な処理のために必要な廃棄物情報（成分や性状等）を処理業者に提供することが必要である。

なお、受注者は、排水の処理に係る産業廃棄物管理票（マニフェスト）について、監督員から請求があった場合は、提示しなければならない。

#### 第6条 安全管理

工事期間中は、安全管理要員等を配置し、工事区域内全般の巡視、点検、連絡調整等を行い安全確保に努めなければならない。

#### 第7条 過積載防止対策

道路交通法及び道路法を遵守するとともに、過積載防止対策に努める。

#### 第8条 地場産品の優先使用

本工事に使用する資材等は、品質が水準以上であり、かつ価格が適正である場合には、県内地産品を優先使用するものとする。

#### 第9条 下請関係の適正化

本工事を下請に付す場合は、「施工体制の適正化及び一括下請負の禁止の徹底等について」を遵守すること。

#### 第10条 社内検査の実施

請負者は、工事の途中段階及び完成時において、発注者の検査前に社内検査を実施するものとし、時期・内容等について施工計画書に記載すること。また、実施結果について監督員に提示するものとする。

#### 第11条 公害防止

建設機械の搬入・搬出及び現場作業による土砂の流出等により周辺に影響を及ぼした場合は、直ちに現状に回復すること。また、本工事により周辺に影響が出ないように配慮すること。

#### 第12条 起工測量

本工事实施にあたり、起工測量を行い損傷箇所や範囲を確認すること。  
設計図書の精査し、施工計画書に反映させること。

#### 第13条 その他

その他、定めがない事項について疑義が生じた場合は、その都度監督員と協議するものとする。

# 総括情報表

事務所 設計書名 変更回数  適用単価 適用単価地区 単価適用年月日  諸経費体系	0001 建設課 実施設計書 当初 0  1 実施単価 07 砺波地区 0-03.07.15(0)  1 公共		
	当 世 代	前 世 代	



# 本工事費内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
本工事費									X1000	
道路修繕・橋梁保全工事									Y1802	
橋梁補修工									Y280228	
断面修復工									Y38022805	
鋼断面補修工									Y4802280501	
鋼断面補修工 紫外線硬化型FRPシート設置工 紫外線照射設置なし				式					V0006	0
左官工法	5.22			m <sup>2</sup>					施工 第0-0001号表	
断面修復工（左官工法） 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 有り 修復延べ体積 0.1m <sup>3</sup> 以上				式					S5511	0
ひび割れ注入工	1			橋					A=1, B=2, C=0.121	
				式					施工 第0-0006号表	
				式					Y4802280402	

# 本工事費内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
ひび割れ補修工（低圧注入工法） 補修延べ延長 25m以上	1			橋					S5510 0 A=2, B=91.09, C=10.9, D=27.3, E=364	
ひび割れ充填工									施工 第0-0007号表 Y4802280401	
ひび割れ補修工（充てん工法） 補修延べ延長 20m未満	1			橋					S5507 0 A=1, C=3	
表面保護工									施工 第0-0008号表 Y38022806	
表面含浸工									Y4802280602	
表面含浸工 土木工事標準単価方式	333.6			m <sup>2</sup>					SS231 0 A=2, B=1, C=1, D=1, E=1, F=0.21	
現場塗装工									施工 第0-0009号表 Y280207	
塗装塗替工（高欄）									Y38020701	
塗装塗替工（高欄） Rc-III	49.4			m <sup>2</sup>					V0007 0	

# 本工事費内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
排水管補修工									Y36090103	
排水管補修工									V0008	0
仮設工	2			箇所					施工	第0-0015号表
鋼橋補修用足場工									Y280209	
鋼橋補修用足場				式					Y3900	
橋梁点検車				式					Y4900	
吊足場工 タイプA1				日					V0001	0
橋脚回り足場 タイプF									施工	第0-0016号表
高欄補修用足場 タイプE	314			m <sup>2</sup>					V0004	0
									施工	第0-0017号表
	29			m <sup>2</sup>					V0003	0
									施工	第0-0018号表
	73			m <sup>2</sup>					V0002	0
									施工	第0-0019号表

# 本工事費内訳表

費目・工種・施工名称など	数	量	単	位	単	価	金	額	備	考
交通管理工									Y38020925	
交通誘導警備員									Y4802092501	
交通誘導警備員				式					S7192 0	
				式					A=0, B=1, C=5	
直接工事費	1			式					施工 第0-0020号表	
共通仮設費 (率分)										
共通仮設費計				式						
純工事費										
現場管理費										
現場管理費計				式						

# 本工事費内訳表

	費目・工種・施工名称など	数 量	単 位	単 価	金 額	備 考
工事原価						
一般管理費等						
工事価格			式			
消費税等相当額			式			
請負対象工事費						
工事価格計						
消費税等相当額計			式			
請負対象工事費計						

# 施工内訳表

[名称] 鋼断面補修工		[規格1] 紫外線硬化型FRPシート設置工		[規格2] 紫外線照射設置なし		1	m <sup>2</sup>	当り
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考		
鋼断面補修工 土木コスト情報 時間制約無 区分C	1	m <sup>2</sup>			W0001			
清掃・水洗い 塗替塗装 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS081	施工	第0-0002号表	
塗替塗装 下塗り塗装 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料(2層)スプレー 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS046	施工	第0-0003号表	
塗替塗装 中塗り塗装 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用 (スプレー) 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS047	施工	第0-0004号表	
塗替塗装 上塗り塗装 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料 (スプレー) 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS048	施工	第0-0005号表	
**単位当り**	1	m <sup>2</sup>						

# 施工内訳表

[名称] 清掃・水洗い [規格1] 塗替塗装		[規格2] 通常箇所				1	m2	当り
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考		
橋梁塗装工 塗替塗装 清掃・水洗い 制約無 昼間	1.00	m2			TL680			
**単位当り**	1	m2						
A=1 通常箇所 C=1 標準（昼間）			B=1	時間的制約無し				

# 施工内訳表

[名称] 塗替塗装 下塗り塗装				1	m2	当り
[規格1] 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料(2層)スプレー				[規格2] 通常箇所		
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考
橋梁塗装工 塗替塗装(下塗り スプレー) 弱溶剤形変性エポキシ 2層 制約無し 昼間	1.00	m2			TL710	
**単位当り**	1	m2				
A=3 C=1	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料(2層)スプレー 時間的制約無し		B=1 D=1	通常箇所 標準 (昼間)		







# 施工内訳表

[名称] 断面修復工 (左官工法)				1		橋 当り	
[規格1] 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 有り				[規格2] 修復延べ体積 0.1m3以上			
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考	
土木一般世話役 一般施工		人			R2008		
特殊作業員		人			R2005		
普通作業員		人			R2006		
断面修復材	0.14	m3			TD710		
諸雑費		%			#09		
**単位当り**	1	橋					
A=1 C=0.121	鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理 有り 1構造物当り修復延べ体積 (m3)		B=2	0.1m3以上			

# 施工内訳表

[名称] ひび割れ補修工 (低圧注入工法)				[規格2]		1	橋	当り
[規格1] 補修延べ延長 25m以上								
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考		
土木一般世話役 一般施工		人			R2008			
特殊作業員		人			R2005			
普通作業員		人			R2006			
注入材	10.90	kg			TD528			
シール材	37.40	kg			TD527			
低圧注入器具	364.00	個			TD720			
諸雑費		%			#09			
**単位当り**	1	橋						
A=2 C=10.9 E=364	25m以上 1構造物当りの注入材使用量 (kg) 1構造物当りの低圧注入器具使用量 (個)		B=91.09 D=27.3	1構造物 1構造物	当り補修延べ延長 (m) 当りのシール材設計量 (kg)			

# 施工内訳表

[名称] ひび割れ補修工 (充てん工法)				1		橋 当り	
[規格1] 補修延べ延長 20m未満				[規格2]			
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考	
土木一般世話役 一般施工		人			R2008		
特殊作業員		人			R2005		
普通作業員		人			R2006		
充てん材	3.60	kg			TD525		
諸雑費		%			#09		
**単位当り**	1	橋					
A=1          20m未満			C=3	1構造物	当り充てん材設計量 (kg)		

# 施工内訳表

[名称] 表面含浸工		[規格1] 土木工事標準単価方式		[規格2]		1	m2	当り
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考		
表面含浸工 (下地処理) 高所作業車無 時間制約無 昼間	1.00	m2			TL803			
表面含浸工 (含浸材塗布工) 高所作業車無 時間制約無 昼間	1.00	m2			TL812			
表面含浸材料	0.21	kg			TD704			
**単位当り**	1	m2						
A=2 下地処理 C=1 時間的制約無し E=1 kg			B=1 高所作業車 無 D=1 標準 (昼間) F=0.21 m2あたり標準使用量 (ロス率含む)					

# 施工内訳表

[名称] 塗装塗替工 (高欄)		[規格1] Rc-III		[規格2]		1	m <sup>2</sup>	当り
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考		
清掃・水洗い 塗替塗装 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS081	施工 第0-0002号表		
塗替塗装 素地調整 3種ケレンA 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS045	施工 第0-0011号表		
塗替塗装 下塗り塗装 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 (はけ・ローラー) 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS046	施工 第0-0012号表		
塗替塗装 下塗り塗装 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 (はけ・ローラー) 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS046	施工 第0-0012号表		
塗替塗装 下塗り塗装 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料 (はけ・ローラー) 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS046	施工 第0-0012号表		
塗替塗装 中塗り塗装 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用 (はけ・ローラー) 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS047	施工 第0-0013号表		
塗替塗装 上塗り塗装 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料 (はけ・ローラー) 通常箇所	1	m <sup>2</sup>			SS048	施工 第0-0014号表		
**単位当り**	1	m <sup>2</sup>						











# 施工内訳表

[名称] 排水管補修工 [規格1]		[規格2]				1	箇所	当り
名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備	考		
普通作業員 既設鋼管切断		人			R2006			
溶接工 L=0.44m		人			R2018			
一般構造用炭素鋼鋼管 φ139.8mm t=4.5mm	0.005	t			W0001			
塗替塗装 下塗り塗装 弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料(2層)スプレー 通常箇所	0.132	m2			SS046	施工	第0-0003号表	
塗替塗装 中塗り塗装 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用(スプレー) 通常箇所	0.132	m2			SS047	施工	第0-0004号表	
塗替塗装 上塗り塗装 弱溶剤形ふっ素樹脂塗料(スプレー) 通常箇所	0.132	m2			SS048	施工	第0-0005号表	
発電機等 機械損料		日			W0001			
**単位当り**	1	箇所						













# 機 労 材 集 計 表

項番	単価 コード	集計 区分	単 価 値	数量累計	単 価 名 称	集 計 区 分 名 称
1	R2005	11			特殊作業員	特殊作業員
2	R2006	12			普通作業員	普通作業員
3	R2008	25			土木一般世話役	一般土木世話役
4	R2015	19			一般運転手	一般運転手
5	R2018	38			溶接工	機械工
6	R2019	23			橋梁特殊工	橋梁工世話役
7	R2053	37			交通誘導警備員B	その他労務
8	TD525	198		3.6	充てん材	消耗品費
9	TD527	198		37.4	シール材	消耗品費
10	TD528	198		10.9	注入材	消耗品費
11	TD704	600		70.056	表面含浸材料	橋梁・河川・港湾用材
12	TD710	755		0.14	断面修復材	左官材
13	TD720	830		364	低圧注入器具	工具類・測定機器
14	TL680	200		54.62	橋梁塗装工 塗替塗装	
15	TL689	200		49.4	橋梁塗装工 塗替塗装 (素地調整)	
16	TL704	200		148.2	橋梁塗装工 塗替塗装(下塗 はけ・ローラー)	
17	TL710	200		5.484	橋梁塗装工 塗替塗装(下塗 スプレー)	
18	TL743	200		49.4	橋梁塗装工 塗替塗装(中塗 はけ・ローラー)	
19	TL746	200		5.484	橋梁塗装工 塗替塗装(中塗 スプレー)	
20	TL770	200		49.4	橋梁塗装工 塗替塗装(上塗 はけ・ローラー)	
21	TL773	200		5.484	橋梁塗装工 塗替塗装(上塗 スプレー)	
22	TL803	200		333.6	表面含浸工 (下地処理工)	
23	TL812	200		333.6	表面含浸工 (含浸材塗布工)	
24	WXXXX	966				

### 瑞穂橋 補修数量総括表

工 種	規 格	単 位	数 量	摘 要
舗装打換工	As舗装 (密粒度アスコン新20FH改)	m <sup>2</sup>	286.66	
	廃材運搬 (As塊)	m <sup>3</sup>	17.200	
	廃材処理 (As塊)	t	40.42	
橋面防水工	塗膜系防水	m <sup>2</sup>	286.66	
	導水パイプ工	m	114.32	
	成型目地材	m	114.32	
	端部目地処理	m	114.32	
	床版水抜設置工	箇所	4	
伸縮装置補修工		m	20.22	
断面修復工	左官工	橋	1	V=0.121m <sup>3</sup>
塗装塗替工	Rc-Ⅲ系塗装(高欄)	m <sup>2</sup>	49.40	
	湿式塗膜剥離剤工 (1回目)	m <sup>2</sup>	639.12	
	湿式塗膜剥離剤工 (2回目)	m <sup>2</sup>	639.12	
	Rc-Ⅰ系塗装	m <sup>2</sup>	639.12	
表面保護工	表面含浸工	m <sup>2</sup>	333.60	
ひびわれ注入工	有機系材料	橋	1	L=91.09m
ひびわれ充填工	有機系材料	橋	1	L=0.15m
鋼断面補修工	紫外線硬化型 FRPシート設置工	m <sup>2</sup>	5.22	
排水装置補修工		箇所	2	
足場工	橋梁点検車(足場組立用)	日	6	
	吊足場	m <sup>2</sup>	314	
	吊足場(橋脚用)	m <sup>2</sup>	29	
	高欄補修用足場	m <sup>2</sup>	73	
	湿式塗膜剥離剤工用 養生設備工	m <sup>2</sup>	342	



項目	計算式	数量
橋面(舗装) 舗装打換工	第1径間 a1 = 22.050 × 6.500 = <u>143.33 m2</u> 第2径間 a2 = 22.050 × 6.500 = <u>143.33 m2</u> 合計 A = $\frac{143.33}{a1} + \frac{143.33}{a2} = \underline{286.66 m2}$	286.66 m2
廃材運搬(As)	第1径間 v1 = 22.050 × 6.500 × 0.060 = <u>8.600 m3</u> ※:既設舗装厚推定値 ※ 第2径間 v2 = 22.050 × 6.500 × 0.060 = <u>8.600 m3</u> ※:既設舗装厚推定値 ※ 合計 V = $\frac{8.600}{v1} + \frac{8.600}{v2} = \underline{17.200 m3}$	17.200 m3
廃材処理	第1径間 g1 = 8.600 × 2.35 = <u>20.21 t</u> ※:アスファルト単位重量 ※ 第2径間 g2 = 8.600 × 2.35 = <u>20.21 t</u> ※:アスファルト単位重量 ※ 合計 G = $\frac{20.21}{g1} + \frac{20.21}{g2} = \underline{40.42 t}$	40.42 t
橋面防水工	第1径間 a1 = 22.050 × 6.500 = <u>143.33 m2</u> 第2径間 a2 = 22.050 × 6.500 = <u>143.33 m2</u> 合計 A = $\frac{143.33}{a1} + \frac{143.33}{a2} = \underline{286.66 m2}$	286.66 m2
導水パイプ工	第1径間 l1 = 22.050 × 2 + 6.530 × 2 = <u>57.16 m</u> 第2径間 l2 = 22.050 × 2 + 6.530 × 2 = <u>57.16 m</u> 合計 L = $\frac{57.16}{l1} + \frac{57.16}{l2} = \underline{114.32 m}$	114.32 m
成型目地材	第1径間 l1 = 22.050 × 2 + 6.530 × 2 = <u>57.16 m</u> 第2径間 l2 = 22.050 × 2 + 6.530 × 2 = <u>57.16 m</u> 合計 L = $\frac{57.16}{l1} + \frac{57.16}{l2} = \underline{114.32 m}$	114.32 m
端部目地処理	第1径間 l1 = 22.050 × 2 + 6.530 × 2 = <u>57.16 m</u> 第2径間 l2 = 22.050 × 2 + 6.530 × 2 = <u>57.16 m</u> 合計 L = $\frac{57.16}{l1} + \frac{57.16}{l2} = \underline{114.32 m}$	114.32 m
床版水抜設置工	第1径間 n1 = 2 箇所 第2径間 n2 = 2 箇所 合計 N = 2 + 2 = <u>4 箇所</u>	4 箇所

項目	計算式	数量
伸縮装置補修工	A1部 $l1 = \underline{6.74 \text{ m}}$ A2部 $l2 = \underline{6.74 \text{ m}}$ P1部 $l3 = \underline{6.74 \text{ m}}$ 合計 $L = \underset{l1}{6.74} + \underset{l2}{6.74} + \underset{l3}{6.74} = \underline{20.22 \text{ m}}$	20.22 m
橋面(地覆) 断面修復工(左官工)	第1径間 $v1 = ( 0.100 \times 0.150 \times 0.200 ) = \underline{0.003 \text{ m}^3}$ 第2径間 $v2 = ( 0.200 \times 0.030 \times 0.100 ) + ( 0.100 \times 0.300 \times 0.150 )$ $+ ( 1.000 \times 0.200 \times 0.100 ) = \underline{0.025 \text{ m}^3}$ 合計 $V = \underset{v1}{0.003} + \underset{v2}{0.025} = \underline{0.028 \text{ m}^3}$	0.028 m <sup>3</sup>
橋面(高欄) 塗装塗替工(Rc-III)	第1径間 $a1 = 0.050 \times 0.050 \times 3.14 \times 22.800$ $+ 0.040 \times 0.040 \times 3.14 \times 22.800$ $+ 0.040 \times 0.040 \times 3.14 \times 22.800$ $+ ( 0.130 \times 0.810 + 0.130 \times 0.810 ) \times 2 \times 24$ $+ 0.11 \times 2 \times 24 = \underline{24.70 \text{ m}^2}$ 第2径間 $a2 = 0.050 \times 0.050 \times 3.14 \times 22.800$ $+ 0.040 \times 0.040 \times 3.14 \times 22.800$ $+ 0.040 \times 0.040 \times 3.14 \times 22.800$ $+ ( 0.130 \times 0.810 + 0.130 \times 0.810 ) \times 2 \times 24$ $+ 0.11 \times 2 \times 24 = \underline{24.70 \text{ m}^2}$ 合計 $A = \underset{a1}{24.70} + \underset{a2}{24.70} = \underline{49.40 \text{ m}^2}$	49.40 m <sup>2</sup>

項目	計算式	数量
下面(床版) 断面修復工(左官工)	第1径間 $v1 = (0.050 \times 0.050 \times 0.050) \times 11 \text{ 箇所} = \underline{0.001 \text{ m}^3}$ 第2径間 $v2 = (0.050 \times 0.050 \times 0.050)$ $+ (0.050 \times 0.050 \times 0.050) \times 4 \text{ 箇所}$ $+ (0.050 \times 0.050 \times 0.050)$ $+ (0.100 \times 0.100 \times 0.050)$ $+ (0.050 \times 0.050 \times 0.050) \times 2 \text{ 箇所}$ $+ (0.050 \times 0.050 \times 0.050)$ $= \underline{0.002 \text{ m}^3}$ 合計 $V = \frac{0.001}{v1} + \frac{0.002}{v2} = \underline{0.003 \text{ m}^3}$	0.003 m3
表面保護工(表面含浸工)	第1径間 $a1 = 22.750 \times (0.790 + 2.480 + 2.480 + 0.790)$ $= \underline{148.79 \text{ m}^2}$ 第2径間 $a2 = 22.750 \times (0.790 + 2.480 + 2.480 + 0.790)$ $= \underline{148.79 \text{ m}^2}$ 合計 $A = \frac{148.79}{a1} + \frac{148.79}{a2} = \underline{297.58 \text{ m}^2}$	297.58 m2
鋼断面補修工	第1径間 $a1 = (1.600 \times 0.255) + (0.500 \times 0.290)$ $+ (0.500 \times 0.290) + (3.300 \times 0.255)$ $+ (2.000 \times 0.290) + (3.300 \times 0.290)$ $= \underline{3.08 \text{ m}^2}$ 第2径間 $a2 = (0.500 \times 0.290) + (0.450 \times 0.290)$ $+ (1.600 \times 0.255) + (0.950 \times 0.290)$ $+ (0.450 \times 0.290) + (4.100 \times 0.255)$ $= \underline{2.14 \text{ m}^2}$ 合計 $A = \frac{3.08}{a1} + \frac{2.14}{a2} = \underline{5.22 \text{ m}^2}$	5.22 m2
排水装置補修工	第1径間 $n1 = \underline{1 \text{ 箇所}}$ 第2径間 $n2 = \underline{1 \text{ 箇所}}$ 合計 $N = 1 + 1 = \underline{2 \text{ 箇所}}$	2 箇所
(1箇所あたり数量)	鋼管 $\phi 139.8\text{mm}$ $G = 0.300 \times 0.015 = \underline{0.005 \text{ t}}$ 既設鋼管切断 t/m $N = \underline{1 \text{ 箇所}}$ 溶接長 $L = 0.140 \times 3.14 = \underline{0.44 \text{ m}}$	
下面(主桁・横桁・対傾構)		
湿式塗膜剥離剤工 (1回目)	$A = \underline{639.12 \text{ m}^2}$ ※ 別途添付計算書より	639.12 m2
湿式塗膜剥離剤工 (2回目)	$A = \underline{639.12 \text{ m}^2}$ ※ 別途添付計算書より	639.12 m2
塗装塗替工(Rc-I)	$A = \underline{639.12 \text{ m}^2}$ ※ 別途添付計算書より	639.12 m2

項目	計算式	数量	
下面(床版) ひびわれ注入工 (0.20mm≦W)	第1径間 $  \begin{aligned}  l_1 &= 0.200 + 0.400 + 0.300 + 0.300 + 0.400 + 0.300 + 0.400 \\  &\quad (1) \quad (2) \quad (3) \quad (4) \quad (5) \quad (6) \quad (7) \\  &+ 0.400 + 0.200 + 0.600 + 0.200 + 0.700 + 0.300 + 0.600 \\  &\quad (8) \quad (9) \quad (10) \quad (11) \quad (12) \quad (13) \quad (14) \\  &+ 0.500 + 1.200 + 0.200 + 0.500 + 0.900 + 0.700 + 0.200 \\  &\quad (15) \quad (16) \quad (17) \quad (18) \quad (19) \quad (20) \quad (21) \\  &+ 0.800 + 0.520 + 2.300 + 0.250 + 0.500 + 0.600 + 0.600 \\  &\quad (22) \quad (23) \quad (24) \quad (25) \quad (26) \quad (27) \quad (28) \\  &+ 0.600 + 0.700 + 0.500 + 1.200 + 1.650 + 1.000 + 0.700 \\  &\quad (29) \quad (30) \quad (31) \quad (32) \quad (33) \quad (34) \quad (35) \\  &+ 0.640 + 0.260 + 4.100 + 0.700 + 2.100 + 0.400 + 0.700 \\  &\quad (36) \quad (37) \quad (38) \quad (39) \quad (40) \quad (41) \quad (42) \\  &+ 0.400 + 1.800 + 0.400 + 0.600 + 0.700 + 0.700 + 1.300 \\  &\quad (43) \quad (44) \quad (45) \quad (46) \quad (47) \quad (48) \quad (49) \\  &+ 0.200 + 0.400 + 0.700 + 0.300 + 0.670 = \underline{38.49} \text{ m} \\  &\quad (50) \quad (51) \quad (52) \quad (53) \quad (54)  \end{aligned}  $		
	第2径間 $  \begin{aligned}  l_2 &= 1.200 + 1.200 + 0.350 + 0.800 + 0.900 + 1.200 + 1.650 \\  &\quad (1) \quad (2) \quad (3) \quad (4) \quad (5) \quad (6) \quad (7) \\  &+ 0.700 + 0.600 + 0.600 + 0.700 + 0.700 + 0.700 + 0.300 \\  &\quad (8) \quad (9) \quad (10) \quad (11) \quad (12) \quad (13) \quad (14) \\  &+ 0.100 + 0.400 + 0.500 + 0.500 + 1.200 + 0.600 + 1.600 \\  &\quad (15) \quad (16) \quad (17) \quad (18) \quad (19) \quad (20) \quad (21) \\  &+ 1.400 + 0.400 = \underline{18.30} \text{ m} \\  &\quad (22) \quad (23)  \end{aligned}  $		
	合計 $  L = \underset{11}{38.49} + \underset{12}{18.30} = \underline{56.79} \text{ m}  $		56.79 m

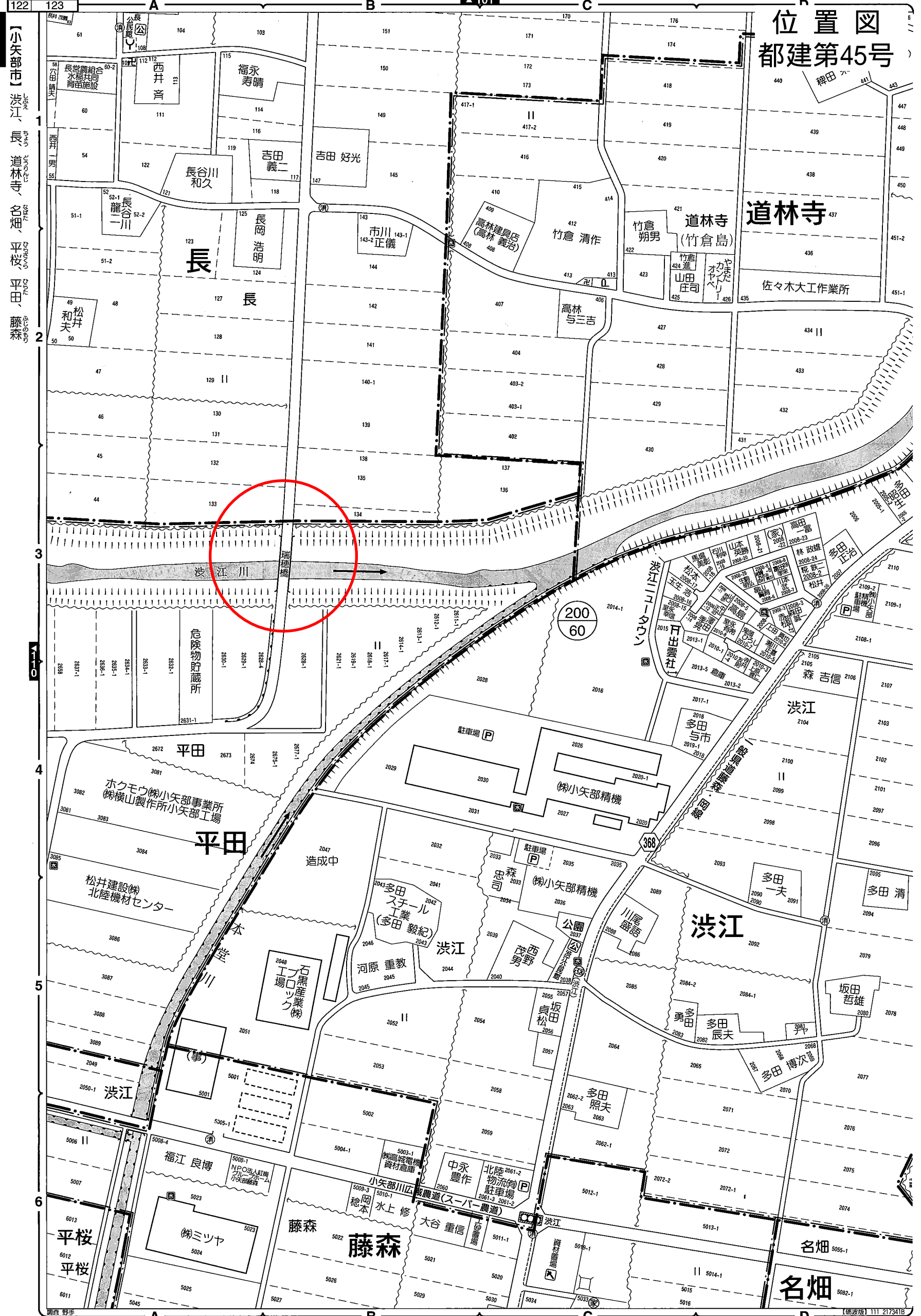


項目	計算式	数量
下部工 断面修復工(左官工)	<p>A1橋台  <math>v1 = ( 0.300 \times 0.300 \times 0.050 ) + ( 0.800 \times 0.300 \times 0.050 )</math>  <math>+ ( 0.300 \times 0.400 \times 0.050 ) = \underline{0.023 \text{ m}^3}</math></p> <p>A2橋台  <math>v2 = ( 0.150 \times 0.300 \times 0.100 ) + ( 0.500 \times 0.500 \times 0.050 )</math>  <math>+ ( 0.400 \times 0.500 \times 0.050 ) + ( 0.300 \times 0.200 \times 0.050 )</math>  <math>+ ( 0.100 \times 0.300 \times 0.050 ) + ( 0.150 \times 0.150 \times 0.050 )</math>  <math>+ ( 0.700 \times 0.700 \times 0.050 ) + ( 0.300 \times 0.200 \times 0.050 )</math>  <math>+ ( 0.300 \times 0.300 \times 0.050 ) = \underline{0.065 \text{ m}^3}</math></p> <p>P1橋脚  <math>v3 = ( 0.100 \times 0.100 \times 0.100 ) + ( 0.100 \times 0.100 \times 0.100 )</math>  <math>= \underline{0.002 \text{ m}^3}</math></p> <p>合計  <math>V = \frac{0.023}{v1} + \frac{0.065}{v2} + \frac{0.002}{v3} = \underline{0.090 \text{ m}^3}</math></p>	0.090 m <sup>3</sup>
湿式塗膜剥離剤工	※ 下面(主桁・横桁・対傾構)湿式塗膜剥離剤工数量準拠	
塗装塗替工(Rc-I)	※ 下面(主桁・横桁・対傾構)塗装塗替工数量準拠	
表面保護工(表面含浸工)	<p>P1橋脚  <math>A = [ ( 1.200 + 1.700 ) / 2 \times 2.600 \times 2 + 1.700 \times 1.800 ]</math>  <math>\times 2 + 1.200 \times 1.800 \times 2 + 2.648 \times 1.800 \times 2</math>  <math>+ ( 1.800 \times 1.800 - 0.850 \times 0.850 \times 3.14 )</math>  <math>= \underline{36.02 \text{ m}^2}</math></p>	36.02 m <sup>2</sup>
ひびわれ注入工 (0.20mm≦W)	<p>P1橋脚  <math>L = 0.500 + 0.550 + 0.650 + 1.050 + 1.200 + 1.650 + 1.400</math>  (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)  <math>+ 0.300 + 0.450 + 0.200 + 0.550 + 0.500 + 0.800 + 0.500</math>  (8) (9) (10) (11) (12) (13) (14)  <math>+ 0.950 + 0.700 + 1.350 + 1.850 + 0.350 + 0.300 + 1.150</math>  (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21)  <math>+ 0.250 + 3.200 + 0.250 + 0.700 + 0.450 + 0.150 + 0.350</math>  (22) (23) (24) (25) (26) (27) (28)  <math>+ 0.450 + 0.600 + 0.800 + 0.350 + 1.050 + 0.200 + 0.900</math>  (29) (30) (31) (32) (33) (34) (35)  <math>+ 0.150 + 0.350 + 0.100 + 0.650 + 0.500 + 0.600 + 0.250</math>  (36) (37) (38) (39) (40) (41) (42)  <math>+ 0.300 + 0.200 + 1.650 + 0.200 + 0.600 + 1.600 + 0.200</math>  (43) (44) (45) (46) (47) (48) (49)  <math>+ 0.300 = \underline{34.30 \text{ m}}</math>  (50)</p>	34.30 m
ひびわれ充填工 (1.00mm≦W)	<p>P1橋脚  <math>L = \underline{0.15 \text{ m}}</math></p>	0.15 m

項目	計算式	数量
<b>足場工</b> 橋梁点検車 吊足場 吊足場(橋脚用) 高欄補修用足場 湿式塗膜剥離剤工用養生設備工	$N = 3 + 3 = \underline{6} \text{ 日}$ <small>組 払</small> $A = 7.50 \times 20.90 \times 2 = \underline{314} \text{ m}^2$ $A = 7.50 \times 3.80 = \underline{29} \text{ m}^2$ $A = 0.80 \times 45.60 \times 2 = \underline{73} \text{ m}^2$ $A = 7.50 \times 45.60 = \underline{342} \text{ m}^2$	6 日 314 m <sup>2</sup> 29 m <sup>2</sup> 73 m <sup>2</sup> 342 m <sup>2</sup>



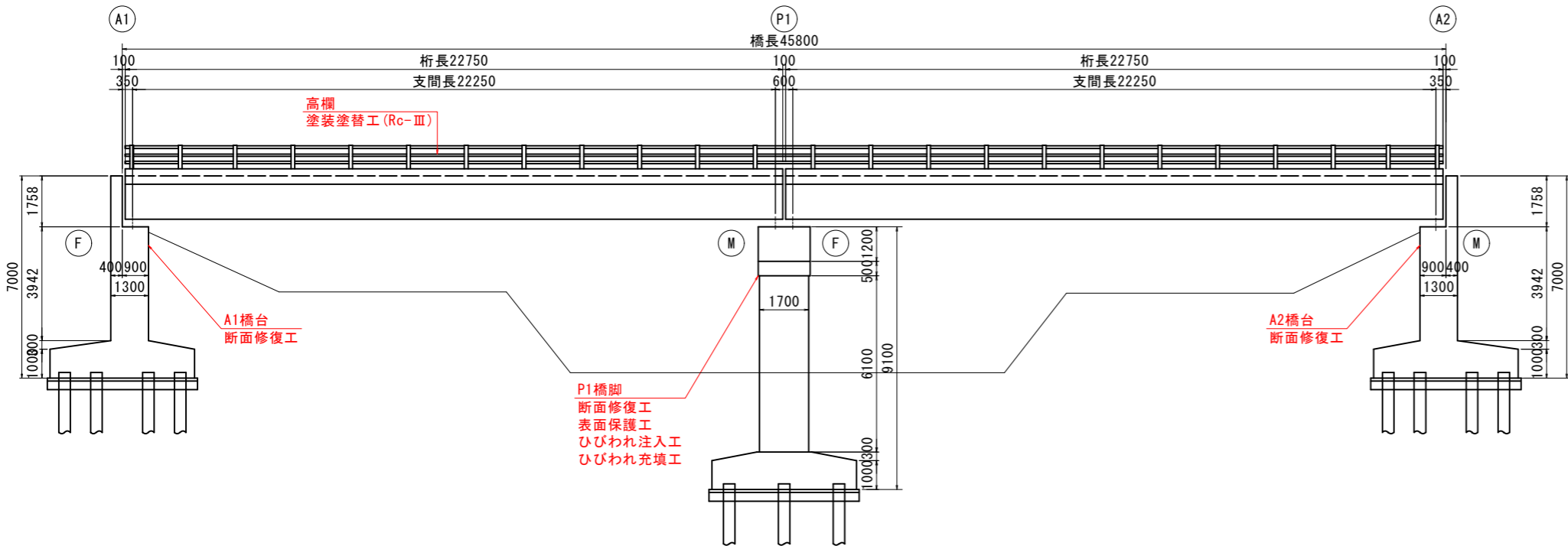
**位置図**  
都建第45号



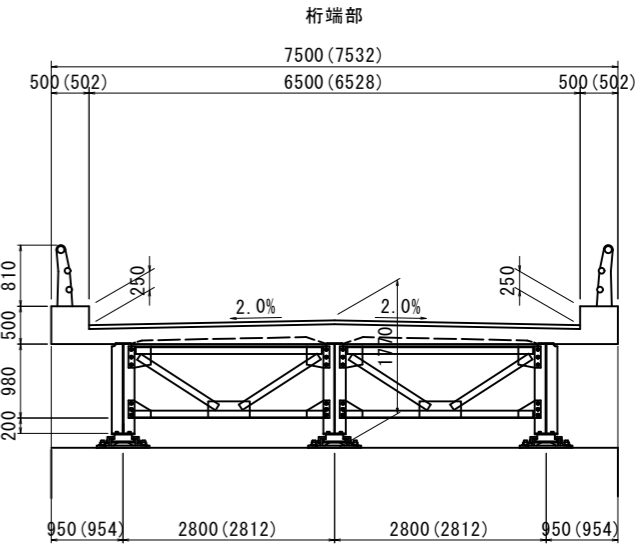
【小矢部市】 渋江、長道林寺、名畑、平桜、平田、藤森

# 瑞穂橋 補修一般図

側面図 S=1:100

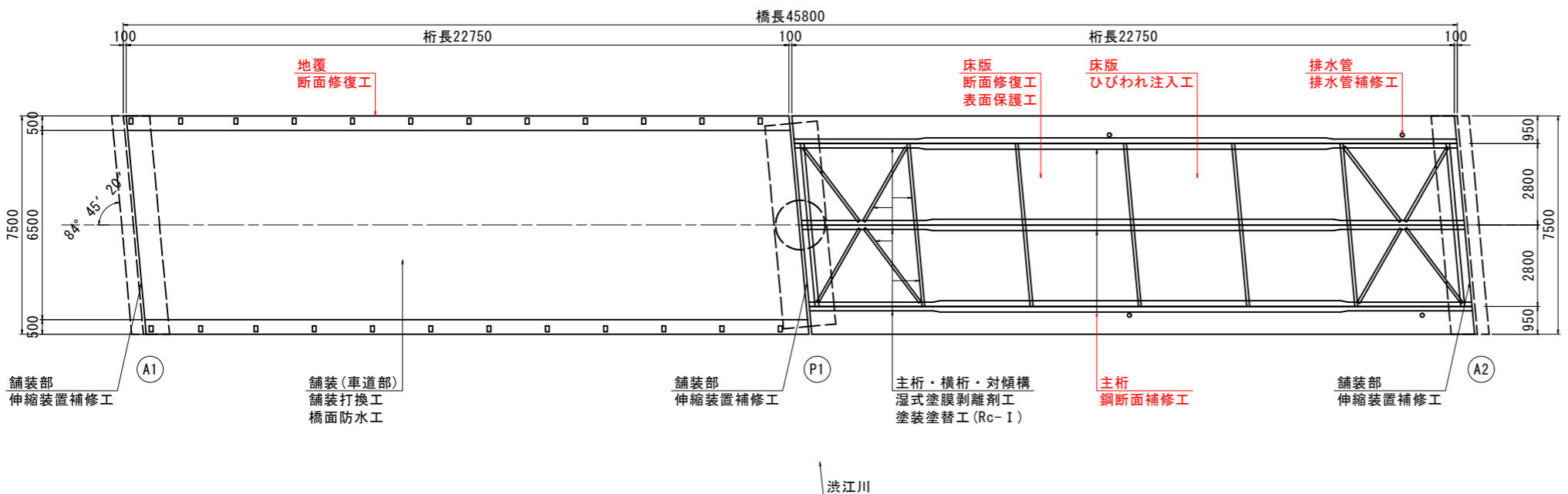


断面図 S=1:50



※( ) 寸法は斜寸法を示す。

平面図 S=1:100



補修工法一覧表

補修工法	詳細事項	部材
舗装打換工	アスファルト舗装	車道舗装部
橋面防水工	塗膜系防水	車道舗装部
伸縮装置補修工	伸縮装置取替工	車道部 (A1橋台、P1橋脚、A2橋台)
断面修復工	左官工 (無機系)	上部工 (床版)、下部工 (A1橋台、P1橋脚、A2橋脚) 付属物 (地覆)
塗装塗替工	湿式塗膜剥離剤工	上部工 (主桁・横桁・対傾構)、付属物 (支承・排水管)
	Rc-I 塗装系	上部工 (主桁・横桁・対傾構)、付属物 (支承・排水管)
	Rc-III 塗装系	付属物 (高欄)
表面保護工	表面含浸工	上部工 (床版)、下部工 (P1橋脚)
ひびわれ補修工	ひびわれ注入工 (有機系)	上部工 (床版)、下部工 (P1橋脚)
	ひびわれ充填工 (有機系)	下部工 (P1橋脚)
鋼断面補修工	紫外線硬化型FRPシート	上部工 (主桁)
排水管補修工		付属物 (排水管)

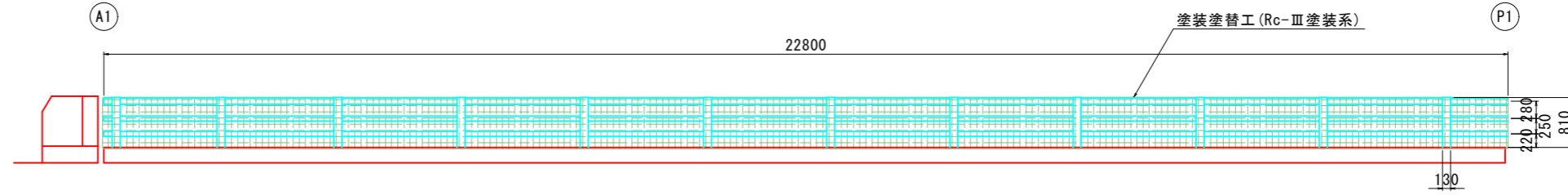
注記 1. 施工前に必ず現地寸法を確認し、補修範囲及び数量調査を協議のうえ施工すること。  
2. 図中詳細寸法は現地検測のうえ決定すること。  
3. 施工時は、可能な限り車両通行が可能となる交通規制計画を立案すること。

工事名	市道増生東雲谷線瑞穂橋補修工事		
図面名	瑞穂橋 補修一般図		
縮尺	図示	図面番号	1
作成年月日	令和 3 年 8 月		
課長	係長	調査	設計 製図
小矢部市			

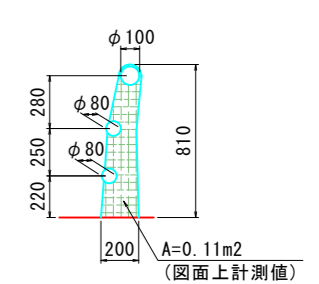
# 瑞穂橋 補修図(その1)

## 橋面A1-P1

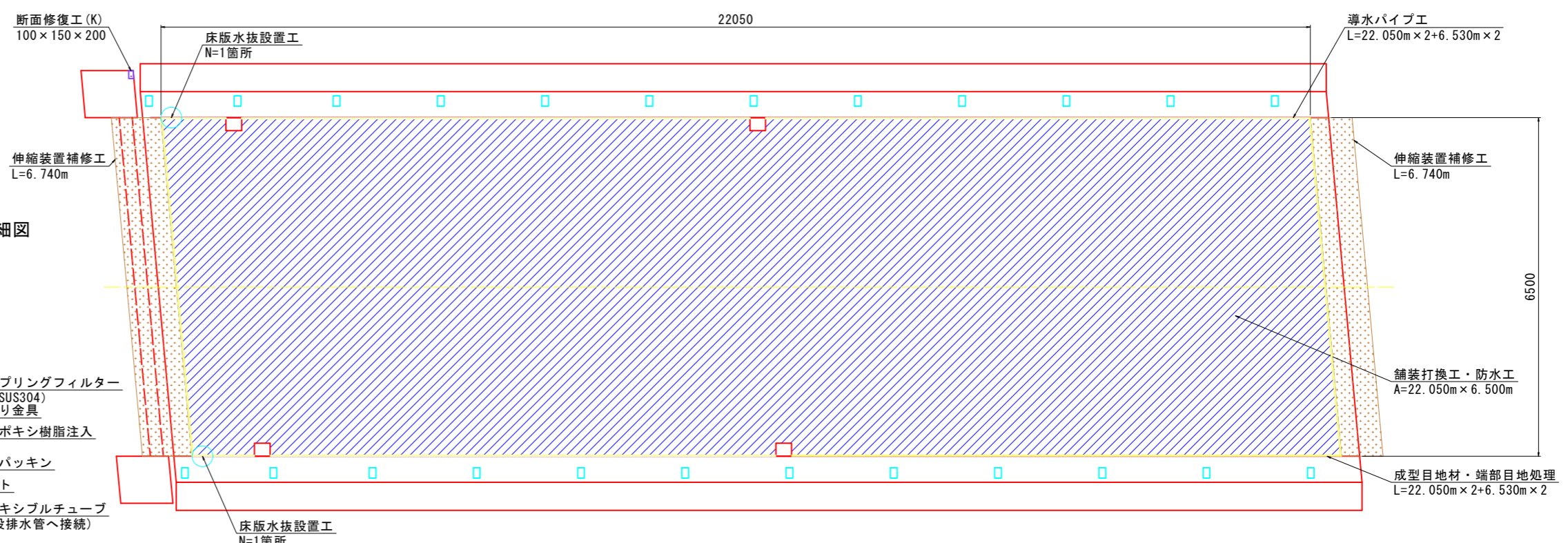
側面図 S=1:50



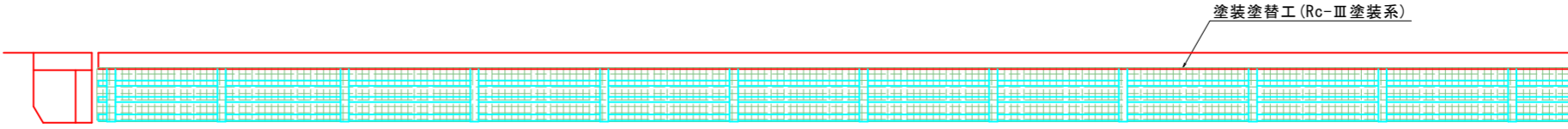
断面図 S=1:20



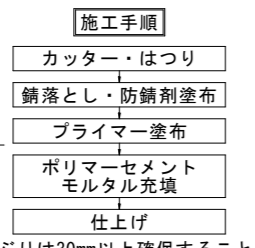
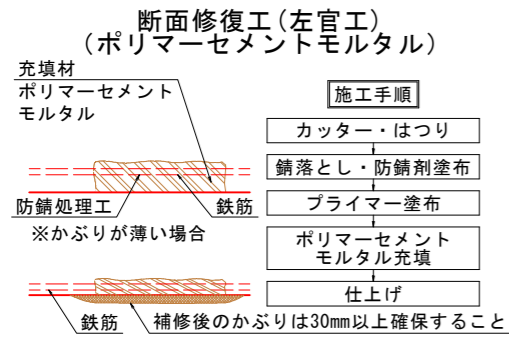
平面図 S=1:50



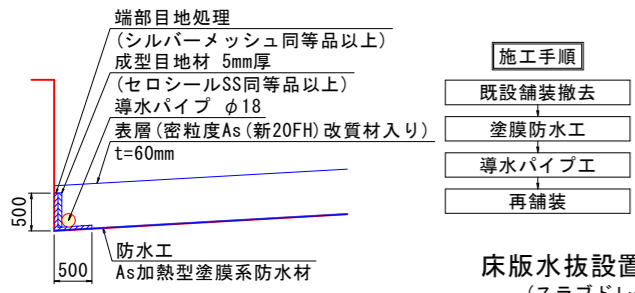
側面図 S=1:50



↑ 洪江川

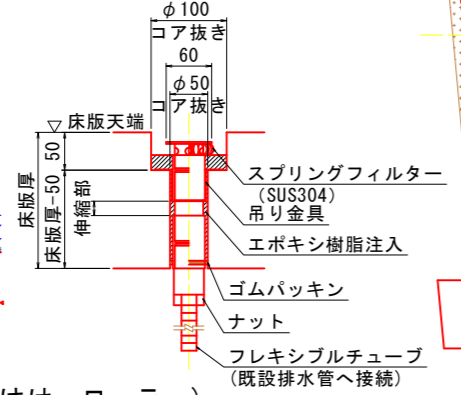


防水層及び舗装端部詳細図

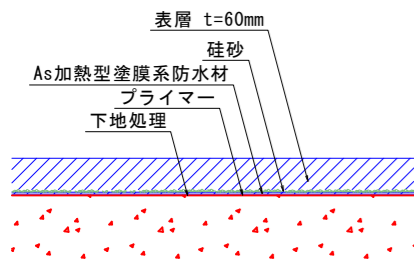


床版水抜設置詳細図

(スラブドレイン)



塗膜防水工詳細図



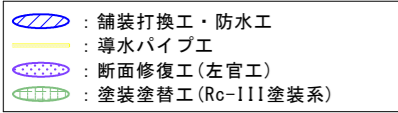
塗装塗替工 Rc-III塗装系(はけ、ローラー)

塗装工 施工手順	塗料名	使用量 (g/m <sup>2</sup> )	塗装間隔
素地調整	3種		4時間以内
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (鋼板露出部のみ)	(200)	1日~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日~10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	1日~10日

補修数量(橋面A1-P1)

項目	数量	単位	項目	数量	単位
舗装打換工	143.33	m <sup>2</sup>	床版水抜設置工	2	箇所
廃材運搬	8.600	m <sup>3</sup>	伸縮装置補修工(A1部)	6.74	m
廃材処理	20.21	t	伸縮装置補修工(P1部)	6.74	m
橋面防水工	143.33	m <sup>2</sup>	断面修復工	0.003	m <sup>3</sup>
導水パイプ工	57.16	m	塗装塗替工(Rc-III)	24.70	m <sup>2</sup>
成型目地材	57.16	m			
端部目地処理	57.16	m			

凡例



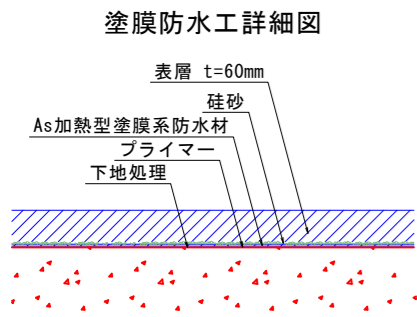
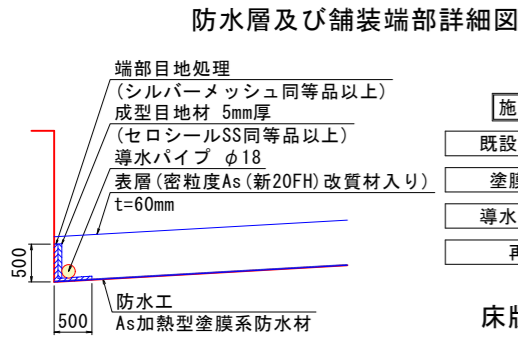
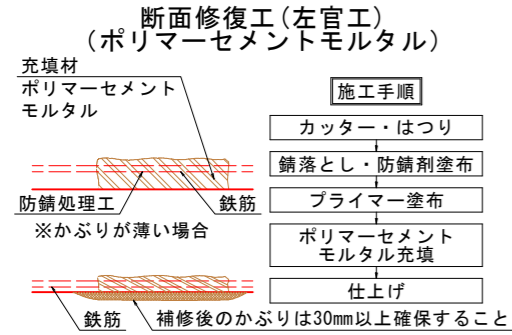
※図中アルファベット記号は、元の損傷を表す。  
K : 欠損

注記

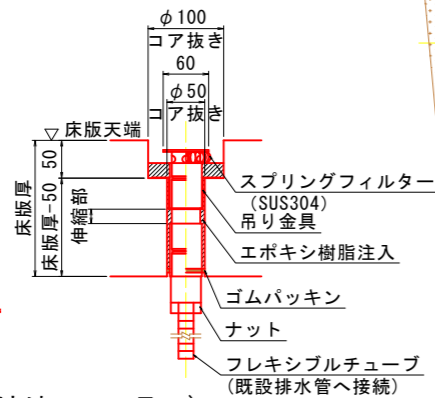
1. 施工前に必ず現地寸法を確認し、補修範囲及び数量調査を協議の上施工すること。
2. 現地寸法確認時、既設建築物との干渉があり補修が困難な箇所がみられる場合は、該当箇所の補修の方法および要否を協議すること。
3. 施工時交通規制は可能な限り供用可能とすること。
4. 品質規格表の項目については、施工条件等を勘案の上、必ずしも基準値を満足する必要がないものと判断される場合には、参考値として取り扱うことができるものとする。
5. 再塗装に使用する材料は、保管に注意し、湿気、塵埃等から十分に保護すること。
6. 素地調整による粉塵等が外部に漏れないように防護にて完全に密封するとともに、適切に廃棄すること。
7. 可能な限り、水洗等にて塩分が50mg/m<sup>2</sup>以下になるまで除去すること。
8. 素地調整終了後は同日中に必ず下塗りまたは補修塗りをを行うこと。
9. 当日塗装できなかった場合は、翌日改めて素地調整を行った後に塗装すること。
10. 再塗装施工完了後、残存研掃材、粉塵などは、エアア又は手ほうきなどで入念に取り除き、橋梁の健全な環境を確保すること。
11. 断面修復工のカッター工は現地確認の上、作業の有無を決定すること。
12. 再劣化防止のために、既設鉄筋の背面まで研り出すこと。
13. コンクリートはつり部分の既設鉄筋には防錆処理を行うこと。
14. 防錆処理は既設鉄筋をワイヤーブラシでケレンし、防錆剤を塗布すること。
15. 防錆剤の種類はポリマーセメント系とすること。
16. 断面修復工で重ね塗りを行う場合は、重ね塗りの時間間隔や断面修復部の凝結状態などを考慮して行うこと。
17. 断面修復工は損傷箇所から100mm程度ずつ余裕を確保した断面で実施すること。
18. 断面補修時、左官工法による左官作業は既設コンクリート面(はつり面)にプライマーを塗布し、空隙を残さないように施工すること。
19. なお、かぶり不足箇所は厚塗りをするなど、かぶりを確認すること。
20. 使用する断面修復材は、設計基準強度24N/mm<sup>2</sup>以上の強度の修復材を使用すること。
21. 鉄筋が腐食している場合の補修では、次の点を特に注意すること。
22. ・腐食した鉄筋のさびを完全に除去し、防錆剤を塗布すること。
23. ・鉄筋の断面欠損が著しい場合には、新たに鉄筋(添え筋)を追加すること。
24. ・損傷箇所近くの損傷していない箇所の鉄筋も腐食している場合は、この部分も含めて補修すること。
25. 20. 補修材を施工条件等により変更する場合は、発注者と協議を行うこと。
26. 19. 新規導水パイプの配置は、流末部は既設排水水へ接続すること。
27. 端部においては床版水抜設置後、既設排水管に接続すること。

工事名	市道増生東盤谷線瑞穂橋補修工事		
図面名	瑞穂橋 補修図(その1) 橋面A1-P1		
縮尺	図示	図面番号	
作成年月日	令和 3 年 8 月		
課長	係長	照査	設計 製図
小矢部市			

# 瑞穂橋 補修図(その2) 橋面P1-A2



### 床版水抜設置詳細図 (スラブドレイン)



### 塗装塗替工 Rc-Ⅲ塗装系(はけ、ローラー)

塗装工 施工手順	塗料名	使用量 (g/m <sup>2</sup> )	塗装間隔
素地調整	3種		4時間以内
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗 (鋼板露出部のみ)	(200)	1日~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日~10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	1日~10日

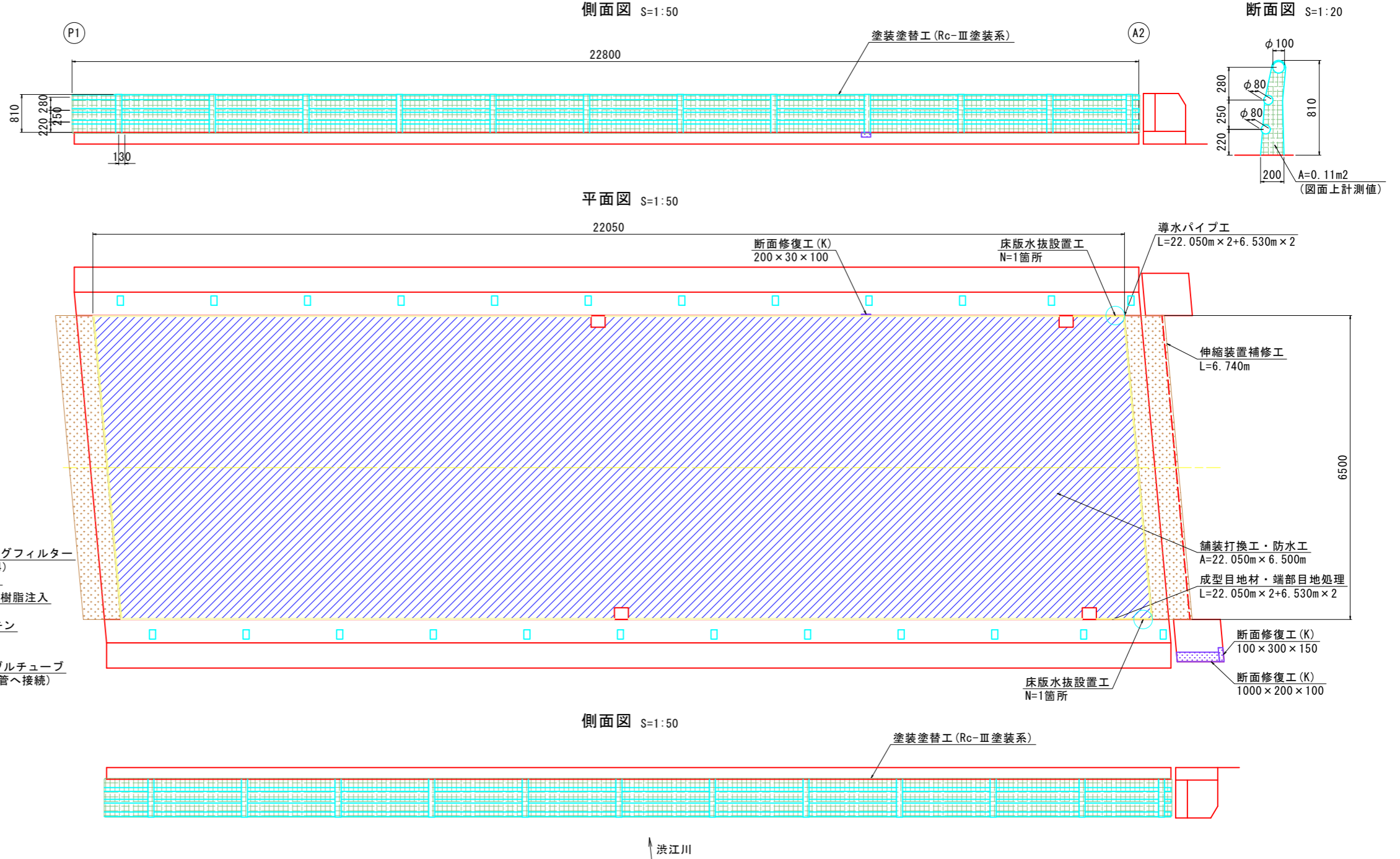
### 補修数量(橋面P1-A2)

項目	数量	単位	項目	数量	単位
舗装打換工	143.33	m <sup>2</sup>	床版水抜設置工	2	箇所
廃材運搬	8.600	m <sup>3</sup>	伸縮装置補修工(A2部)	6.74	m
廃材処理	20.21	t	断面修復工	0.025	m <sup>3</sup>
橋面防水工	143.33	m <sup>2</sup>	塗装塗替工(Rc-Ⅲ)	24.70	m <sup>2</sup>
導水パイプ工	57.16	m			
成型目地材	57.16	m			
端部目地処理	57.16	m			

### 凡例

- : 舗装打換工・防水工
- : 導水パイプ工
- : 断面修復工(左官工)
- : 塗装塗替工(Rc-Ⅲ塗装系)

※図中アルファベット記号は、元の損傷を表す。  
K : 欠損



### 注記

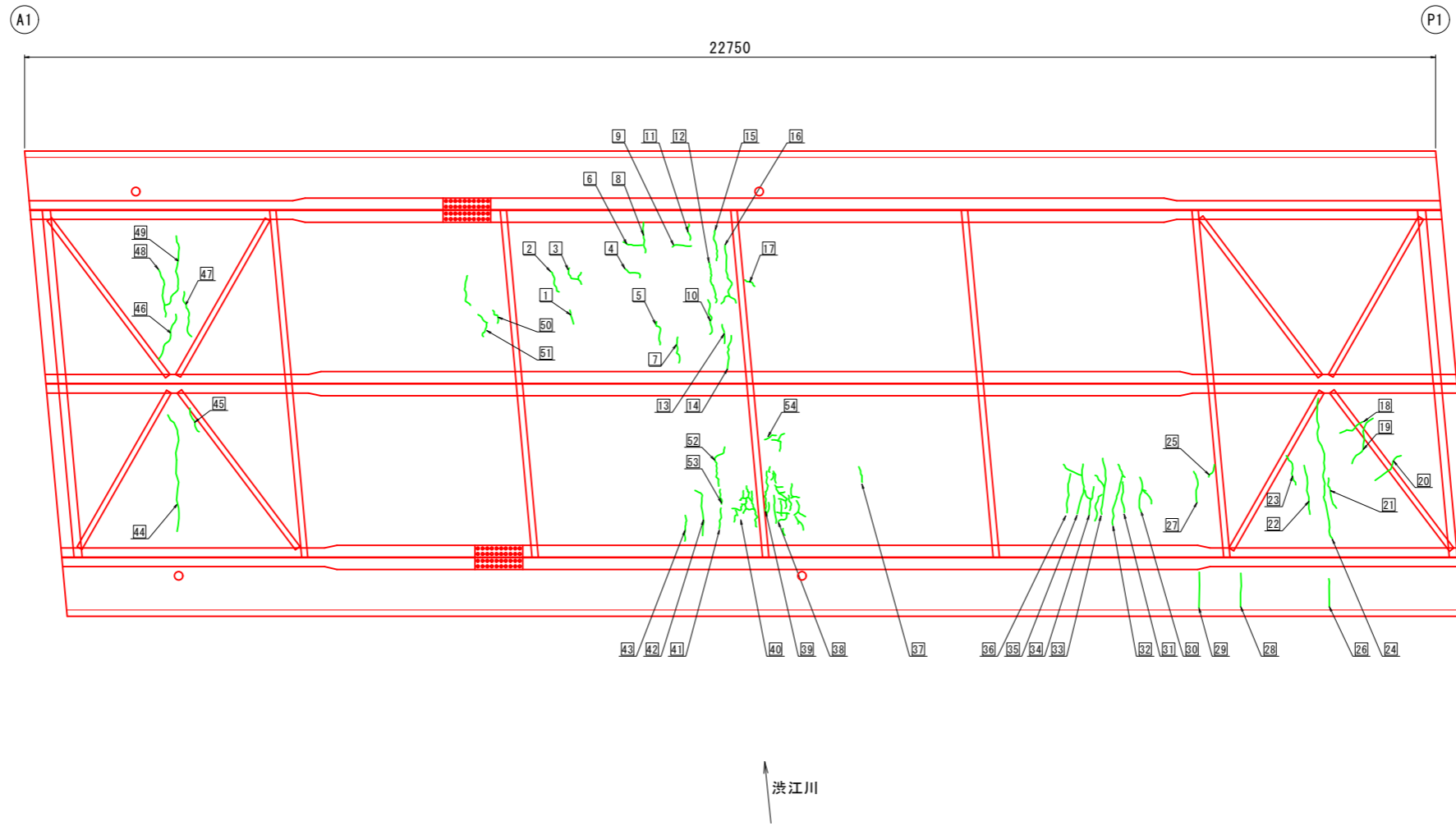
- 施工前に必ず現地寸法を確認し、補修範囲及び数量調査を協議の上施工すること。
- 現地寸法確認時、既設建築物との干渉があり補修が困難な箇所がみられる場合は、該当箇所の補修の方法および要否を協議すること。
- 施工時交通規制は可能な限り供用可能とすること。
- 品質規格表の項目については、施工条件等を勘案の上、必ずしも基準値を満足する必要がないものと判断される場合には、参考値として取り扱うことができるものとする。
- 再塗装に使用する材料は、保管に注意し、湿気、塵埃等から十分に保護すること。
- 素地調整による粉塵等が外部に漏れないように防護にて完全に密封するとともに、適切に廃棄すること。
- 可能な限り、水洗等にて塩分が50mg/m<sup>2</sup>以下になるまで除去すること。
- 素地調整終了後は同日中に必ず下塗りまたは補修塗りをを行うこと。当日塗装できなかった場合は、翌日改めて素地調整を行った後に塗装すること。
- 角部において面取りや曲面仕上げが行われていない箇所では、専用加工機等による曲面仕上げを行うとともに、先行塗装を実施すること。
- 再塗装施工完了後、残存研掃材、粉塵などは、エアア又は手ほうきなどで入念に取り除き、橋梁の健全な環境を確保すること。
- 断面修復工のカッター工は現地確認の上、作業の有無を決定すること。再劣化防止のために、既設鉄筋の背面まで研り出すこと。
- コンクリートはつり部分の既設鉄筋には防錆処理を行うこと。防錆処理は既設鉄筋をワイヤーブラシでケレンし、防錆剤を塗布すること。防錆剤の種類はポリマーセメント系とすること。
- 断面修復工で重ね塗りを行う場合は、重ね塗りの時間間隔や断面修復部の凝結状態などを考慮して行うこと。
- 断面修復工は損傷箇所から100mm程度ずつ余裕を確保した断面で実施すること。
- 断面補修時、左官工法による左官作業は既設コンクリート面(はつり面)にプライマーを塗布し、空隙を残さないように施工すること。なお、かぶり不足箇所は厚塗りをするなど、かぶりを確認すること。
- 使用する断面修復材は、設計基準強度24N/mm<sup>2</sup>以上の強度の修復材を使用すること。
- 鉄筋が腐食している場合の補修では、次の点を特に注意すること。
  - 腐食した鉄筋のさびを完全に除去し、防錆剤を塗布すること。
  - 鉄筋の断面欠損が著しい場合には、新たに鉄筋(添え筋)を追加すること。
  - 損傷箇所近くの損傷していない箇所の鉄筋も腐食している場合は、この部分も含めて補修すること。
- 補修材を施工条件等により変更する場合は、発注者と協議を行うこと。
- 新規導水パイプの配置は、流末部は既設排水水へ接続すること。端部においては床版水抜設置後、既設排水管に接続すること。

工事名	市道増生東盤谷線瑞穂橋補修工事		
図面名	瑞穂橋 補修図(その2) 橋面P1-A2		
縮尺	図示	図面番号	
作成年月日	令和 3 年 8 月		
課長	係長	照査	設計 製図
小矢部市			



# 瑞穂橋 補修図(その5) 桁下A1-P1(ひびわれ補修工数量図)

平面図 S=1:50



### ひびわれ注入工 (0.20mm ≤ W)

1] w=0.20 l=200	26] w=0.20 l=500	51] w=0.20 l=400
2] w=0.20 l=400	27] w=0.20 l=600	52] w=0.20 l=700
3] w=0.20 l=300	28] w=0.20 l=600	53] w=0.20 l=300
4] w=0.20 l=300	29] w=0.20 l=600	54] w=0.20 l=670
5] w=0.20 l=400	30] w=0.20 l=700	
6] w=0.30 l=300	31] w=0.20 l=500	
7] w=0.20 l=400	32] w=0.20 l=1200	
8] w=0.20 l=400	33] w=0.20 l=1650	
9] w=0.20 l=200	34] w=0.30 l=1000	
10] w=0.20 l=600	35] w=0.30 l=700	
11] w=0.20 l=200	36] w=0.20 l=640	
12] w=0.20 l=700	37] w=0.20 l=260	
13] w=0.30 l=300	38] w=0.20 l=4100	
14] w=0.20 l=600	39] w=0.30 l=700	
15] w=0.20 l=500	40] w=0.20 l=2100	
16] w=0.20 l=1200	41] w=0.20 l=400	
17] w=0.20 l=200	42] w=0.20 l=700	
18] w=0.40 l=500	43] w=0.20 l=400	
19] w=0.20 l=900	44] w=0.20 l=1800	
20] w=0.30 l=700	45] w=0.20 l=400	
21] w=0.20 l=200	46] w=0.20 l=600	
22] w=0.20 l=800	47] w=0.20 l=700	
23] w=0.20 l=520	48] w=0.20 l=700	
24] w=0.30 l=2300	49] w=0.20 l=1300	
25] w=0.20 l=250	50] w=0.20 l=200	

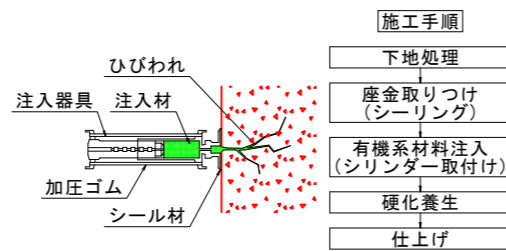
### 補修数量(桁下A1-P1 ひびわれ補修工)

項目	数量	単位
ひびわれ注入工	38.49	m

### 凡例

	: (1.00 ≤ W 充填工)
	: (0.20 ≤ W 注入工)

### ひびわれ注入工 (ひびわれ幅 0.20mm ≤ W)



### 注記

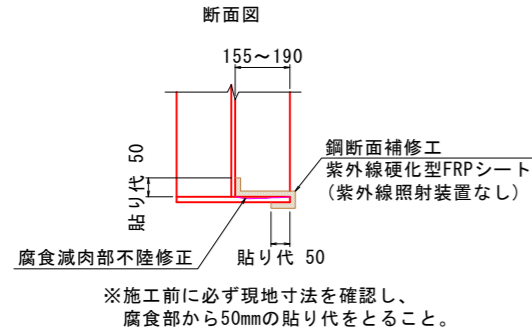
- ひびわれ補修工は、ひびわれ幅0.20mm以上を対象としている。  
なお、ひびわれに遊離石灰が詰まっており注入できない箇所は補修対象外としている。
- ひびわれ注入工は、ひびわれ幅の大小や施工条件により他工法(ひびわれ充填工等)に変更が必要な場合は、発注者と協議を行うこと。
- 補修材を施工条件等により変更する場合は、発注者と協議を行うこと。

工事名	市道増生東盤谷線瑞穂橋補修工事			
図面名	瑞穂橋 補修図(その5) 桁下A1-P1(ひびわれ補修工数量図)			
縮尺	図示	図面番号		
作成年月日	令和 3 年 8 月			
課長	係長	照査	設計	製図
小 矢 部 市				

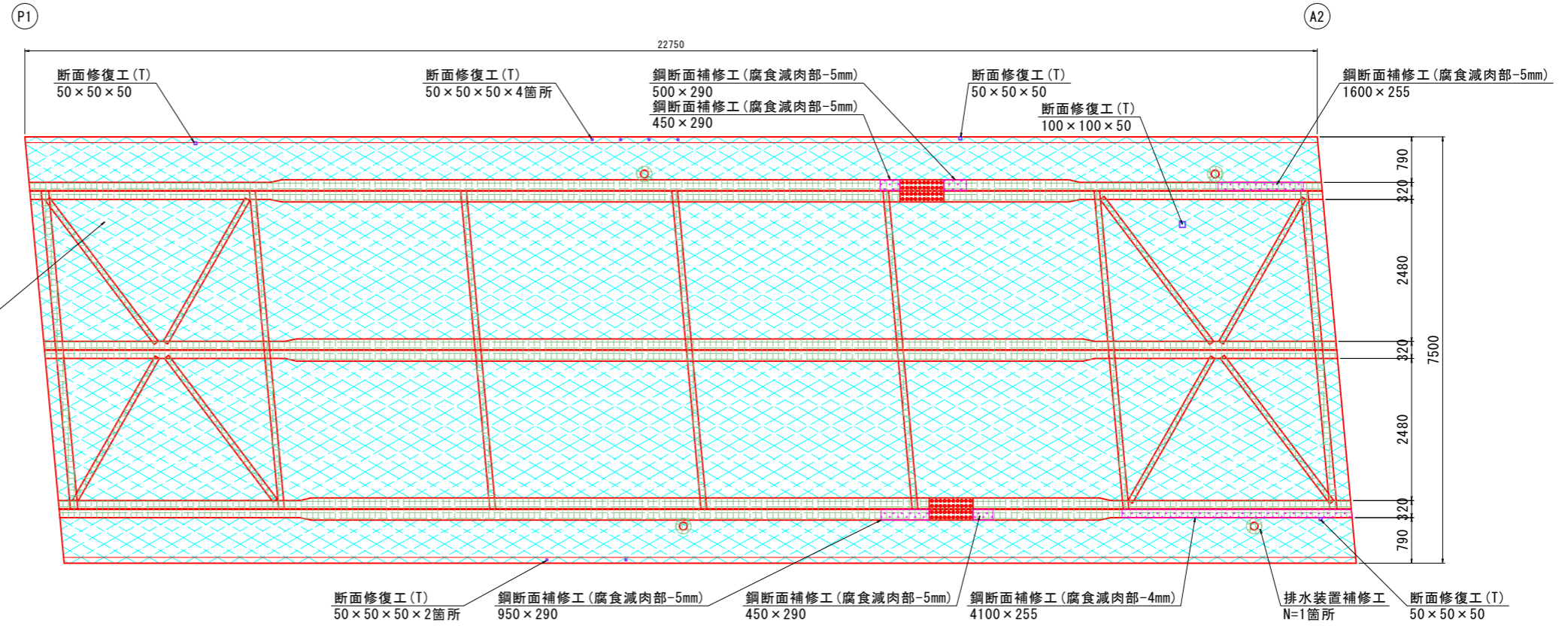


# 瑞穂橋 補修図(その6) 桁下P1-A2

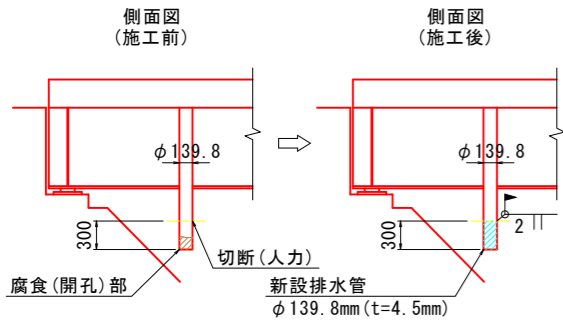
鋼断面補修工 S=1:10



平面図 S=1:50



排水装置補修工 S=1:40

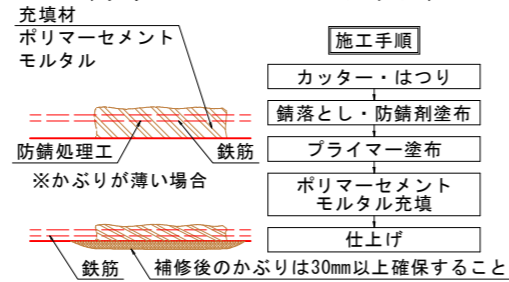


表面保護工(表面含浸工)

塗装塗替工 Rc-I塗装系(スプレー)

塗装工 施工手順	塗料名	使用量 (g/m <sup>2</sup> )	塗装間隔
素地調整	1種		4時間以内
防食下地	有機ジnkリッチペイント	600	1日~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日~10日
下塗	弱溶剤形変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	170	1日~10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日~10日

断面修復工(左官工)  
(ポリマーセメントモルタル)



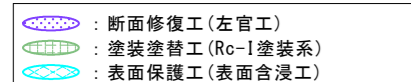
注記

1. 施工前に必ず現地寸法を確認し、補修範囲及び数量調査を協議のうえ施工すること。
2. 現地寸法確認時、既設建築物との干渉があり補修が困難な箇所がみられる場合は、該当箇所の補修の方法および可否を協議すること。
3. 施工時交通規制は可能な限り供用可能とすること。
4. 品質規格表の項目については、施工条件等を勘案の上、必ずしも基準値を満足する必要がないものと判断される場合には、参考値として取り扱うことができるものとする。
5. 再塗装に使用する材料は、保管に注意し、湿気、塵埃等から十分に保護すること。
6. 現況の塗装に鉛化合物が含有しているため、塗装を行う前に塗膜剥離剤による処理を行い、廃棄物を湿潤化して回収すること。
7. 素地調整による粉塵等が外部に漏れないように防護にて完全に密封するとともに、適切に廃棄すること。
8. 可能な限り、水洗等にて塩分が50mg/m<sup>2</sup>以下になるまで除去すること。
9. 素地調整終了後は同日中に必ず下塗りまたは補修塗りを行うこと。当日塗装できなかった場合は、翌日改めて素地調整を行った後に塗装すること。
10. 角部において面取りや曲面仕上げが行われていない箇所では、専用加工機等による曲面仕上げを行うとともに、先行塗装を実施すること。
11. 再塗装施工完了後、残存研掃材、粉塵などは、エアークリーンまたは手ほうきなどで入念に取り除き、橋梁の健全な環境を確保すること。
12. 断面修復工のカッター工は現地確認の上、作業の有無を決定すること。再劣化防止のために、既設鉄筋の背面まで削り出すこと。
13. コンクリートはつり部分の既設鉄筋には防錆処理を行うこと。防錆処理は既設鉄筋をワイヤーブラシでケレンし、防錆剤を塗布すること。防錆剤の種類はポリマーセメント系とすること。
14. 断面修復工で重ね塗りを行う場合は、重ね塗りの時間間隔や断面修復部の凝結状態などを考慮して行うこと。
15. 断面修復工は損傷箇所から100mm程度ずつ余裕を確保した断面で実施すること。
16. 断面補修時、左官工法による左官作業は既設コンクリート面(はつり面)にプライマーを塗布し、空隙を残さないように施工すること。なお、かぶり不足箇所は厚塗りをするなど、かぶりを確認すること。
17. 使用する断面修復材は、設計基準強度24N/mm<sup>2</sup>以上の強度の修復材を使用すること。
18. 鉄筋が腐食している場合の補修では、次の点を特に注意すること。  
・腐食した鉄筋のさびを完全に除去し、防錆剤を塗布すること。  
・鉄筋の断面欠損が著しい場合には、新たに鉄筋(添え筋)を追加すること。  
・損傷箇所近くの損傷していない箇所の鉄筋も腐食している場合は、この部分も含めて補修すること。
19. 補修材を施工条件等により変更する場合は、発注者と協議を行うこと。

補修数量(桁下P1-A2)

項目	数量	単位
断面修復工	0.002	m <sup>3</sup>
表面保護工(表面含浸工)	148.79	m <sup>2</sup>
鋼断面補修工	2.14	m <sup>2</sup>
排水装置補修工	1	箇所
湿式塗膜剥離剤工	319.56	m <sup>2</sup>
塗装塗替工(Rc-I)	319.56	m <sup>2</sup>

凡例

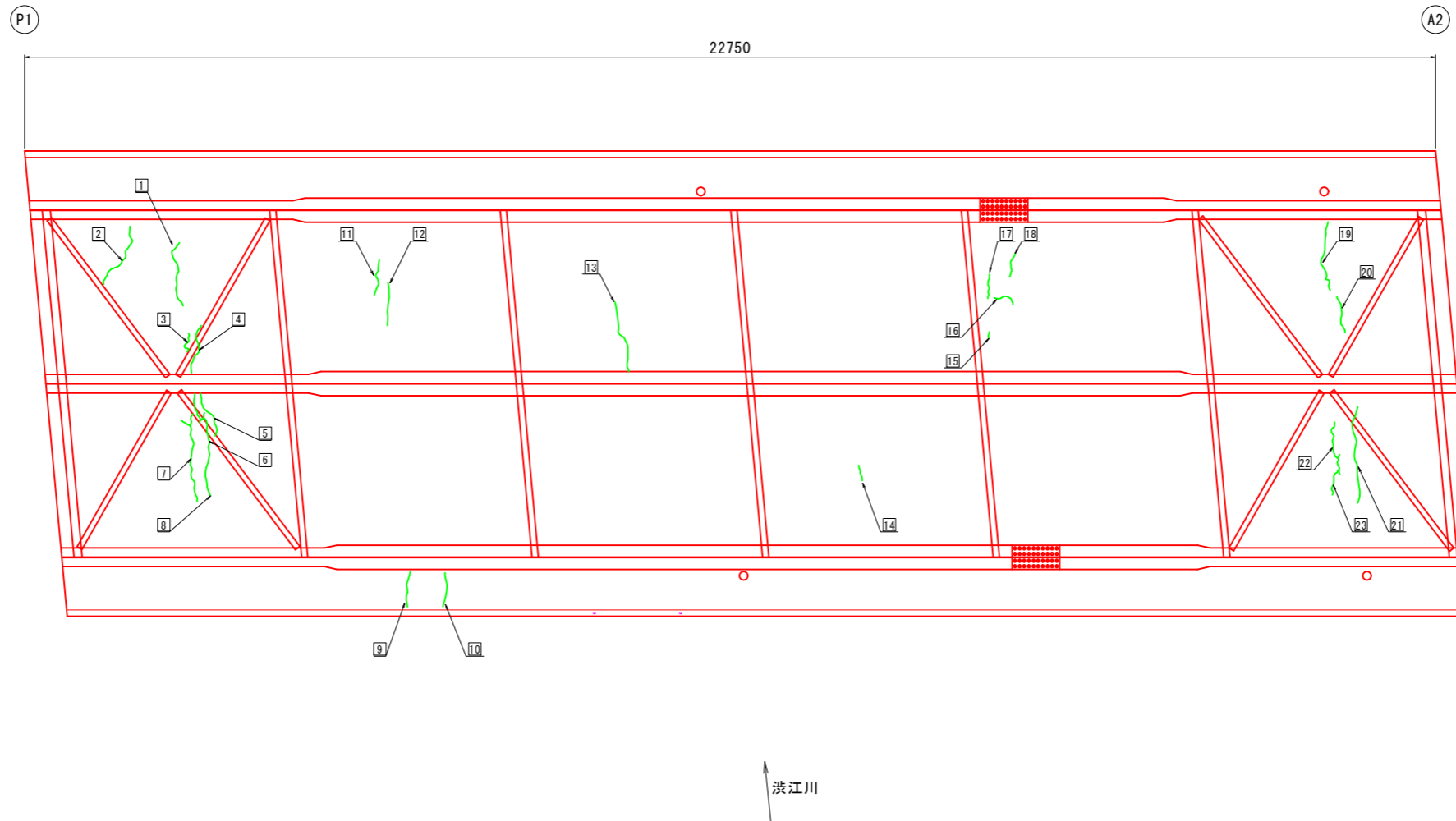


※図中アルファベット記号は、元の損傷を表す。  
T : 鉄筋露出

工事名	市道瑞穂生東盤谷線瑞穂橋補修工事		
図面名	瑞穂橋 補修図(その6) 桁下P1-A2		
縮尺	図示	図面番号	
作成年月日	令和 3 年 8 月		
課長	係長	照査	設計 製図
小矢部市			

# 瑞穂橋 補修図(その7) 桁下P1-A2(ひびわれ補修工数量図)

平面図 S=1:50



**ひびわれ注入工 (0.20mm ≤ W)**

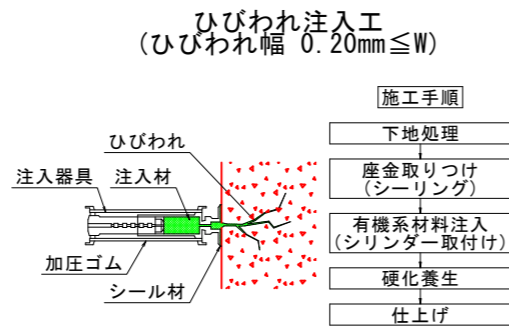
- ① W=0.20 L=1200
- ② W=0.20 L=1200
- ③ W=0.20 L=350
- ④ W=0.20 L=800
- ⑤ W=0.20 L=900
- ⑥ W=0.20 L=1200
- ⑦ W=0.20 L=1650
- ⑧ W=0.20 L=700
- ⑨ W=0.20 L=600
- ⑩ W=0.20 L=600
- ⑪ W=0.20 L=700
- ⑫ W=0.20 L=700
- ⑬ W=0.20 L=700
- ⑭ W=0.20 L=300
- ⑮ W=0.20 L=100
- ⑯ W=0.20 L=400
- ⑰ W=0.20 L=500
- ⑱ W=0.40 L=500
- ⑲ W=0.20 L=1200
- ⑳ W=0.20 L=600
- ㉑ W=0.20 L=1600
- ㉒ W=0.20 L=1400
- ㉓ W=0.20 L=400

**補修数量(桁下P1-A2 ひびわれ補修工)**

項目	数量	単位
ひびわれ注入工	18.30	m

**凡例**

- : (1.00 ≤ W 充填工)
- ~ : (0.20 ≤ W 注入工)



**注記**

1. ひびわれ補修工は、ひびわれ幅0.20mm以上を対象としている。  
なお、ひびわれに遊離石灰が詰まっており注入できない箇所は補修対象外としている。
2. ひびわれ注入工は、ひびわれ幅の大小や施工条件により他工法(ひびわれ充填工等)に変更が必要な場合は、発注者と協議を行うこと。
3. 補修材を施工条件等により変更する場合は、発注者と協議を行うこと。

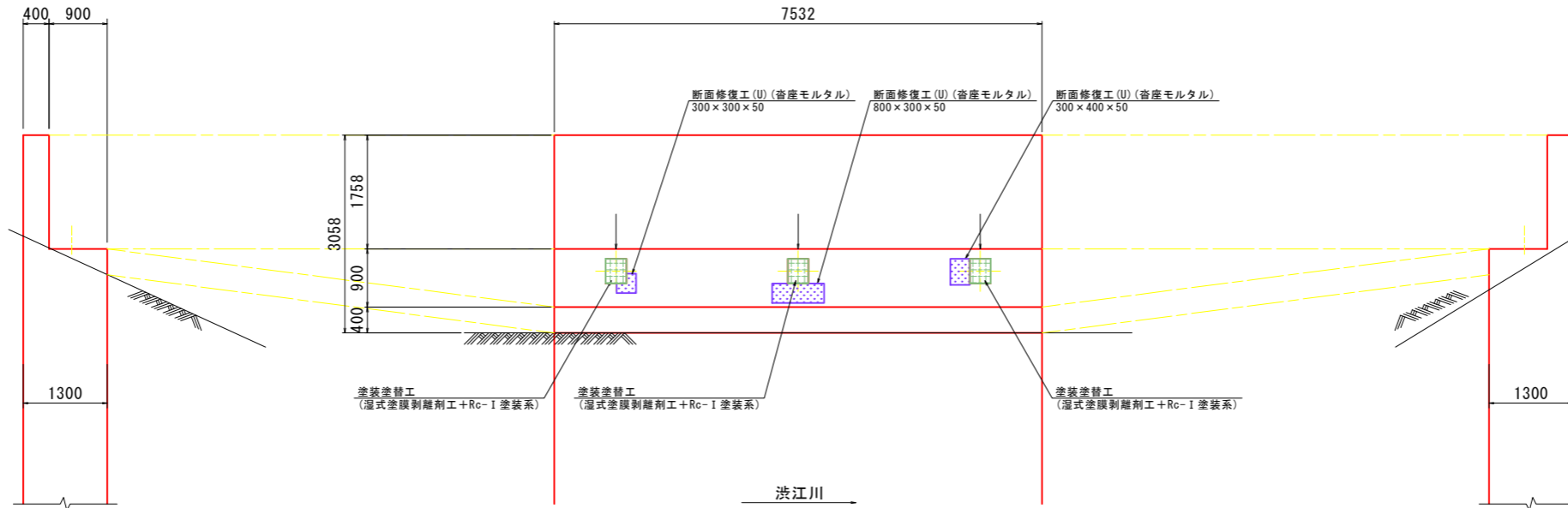
工事名	市道増生東盤谷線瑞穂橋補修工事		
図面名	瑞穂橋 補修図(その7) 桁下P1-A2(ひびわれ補修工数量図)		
縮尺	図示	図面番号	
作成年月日	令和 3 年 8 月		
課長	係長	照査	設計 製図
<b>小 矢 部 市</b>			

# 瑞穂橋 補修図(その8) 橋台A1・A2

側面図 S=1:50  
上流側

正面図 S=1:50  
A1橋台

側面図 S=1:50  
下流側



補修数量(橋台A1)

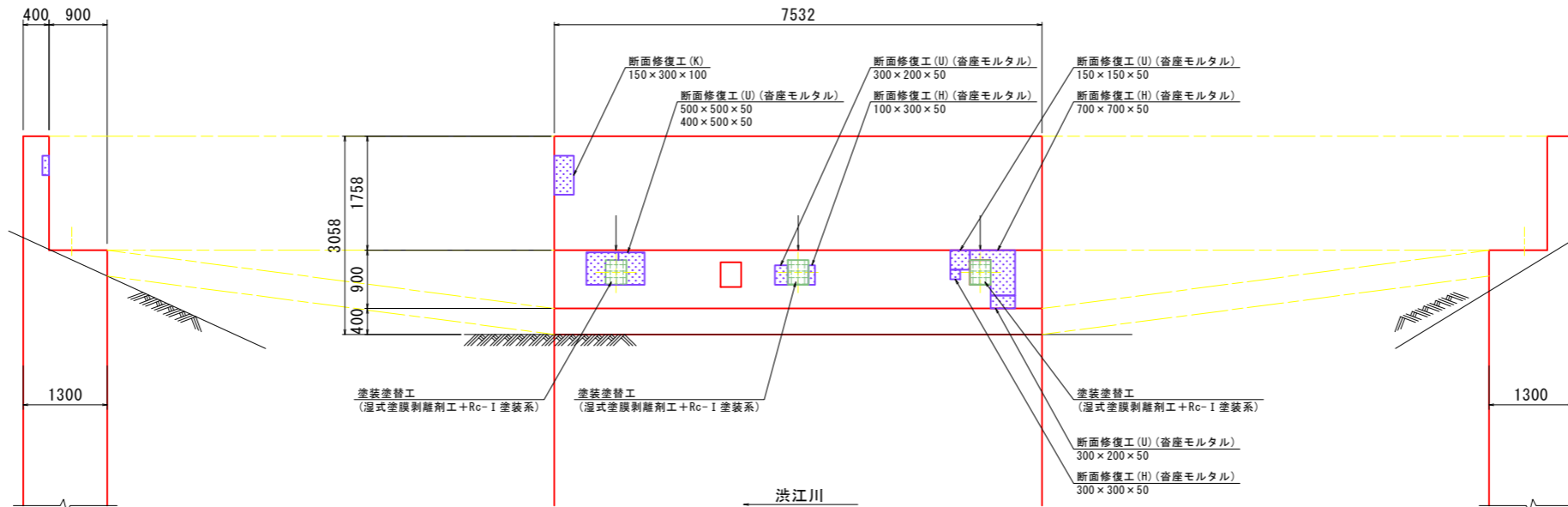
項目	数量	単位
断面修復工	0.023	m3
湿式塗膜剥離剤工	(※)	m2
塗装塗替工(Rc-I)	(※)	m2

(※) 上部工下面の同工種数量に含む

側面図 S=1:50  
下流側

正面図 S=1:50  
A2橋台

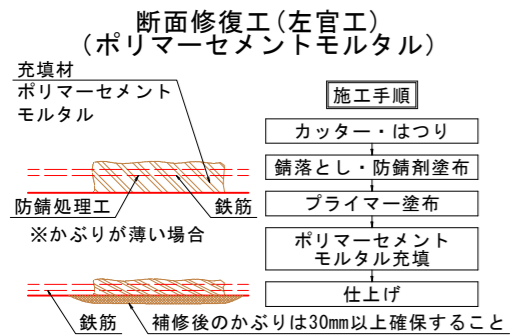
側面図 S=1:50  
上流側



補修数量(橋台A2)

項目	数量	単位
断面修復工	0.065	m3
湿式塗膜剥離剤工	(※)	m2
塗装塗替工(Rc-I)	(※)	m2

(※) 上部工下面の同工種数量に含む



## 塗装塗替工 Rc-I 塗装系(スプレー)

塗装工 施工手順	塗料名	使用量 (g/m2)	塗装間隔
素地調整	1種		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日~10日
下塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日~10日
下塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料中塗	170	1日~10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日~10日

## 凡例

- 断面修復工(左官工)
- 塗装塗替工(Rc-I塗装系)

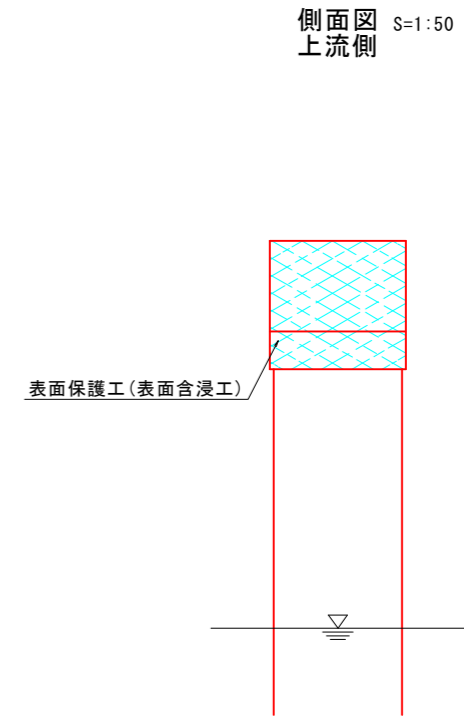
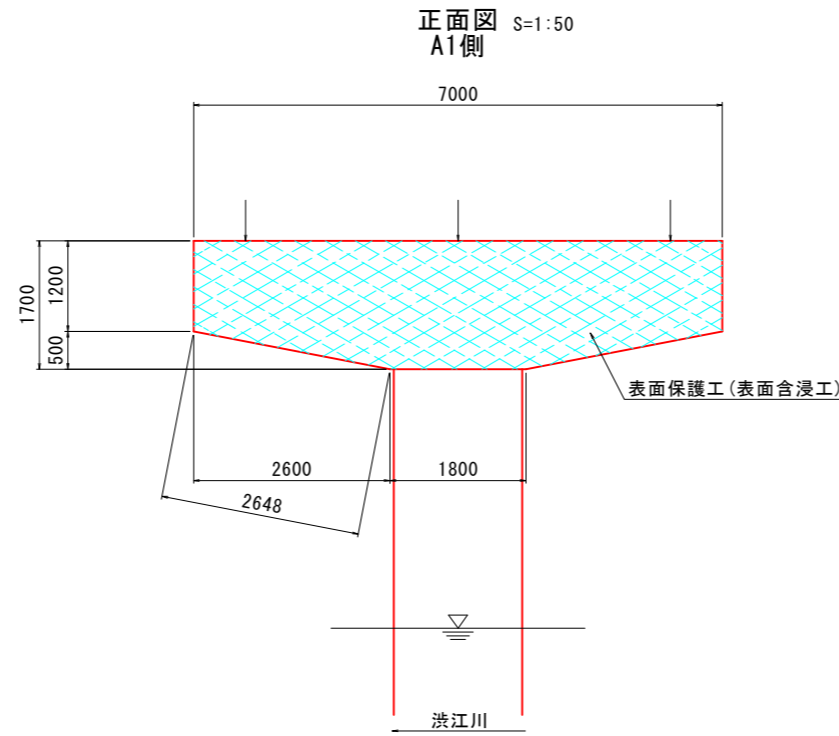
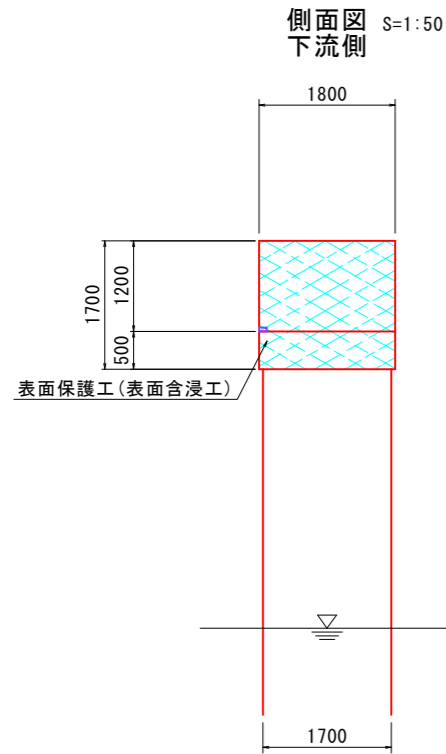
※図中アルファベット記号は、元の損傷を表す。  
K:欠損 U:うき H:剥離

## 注記

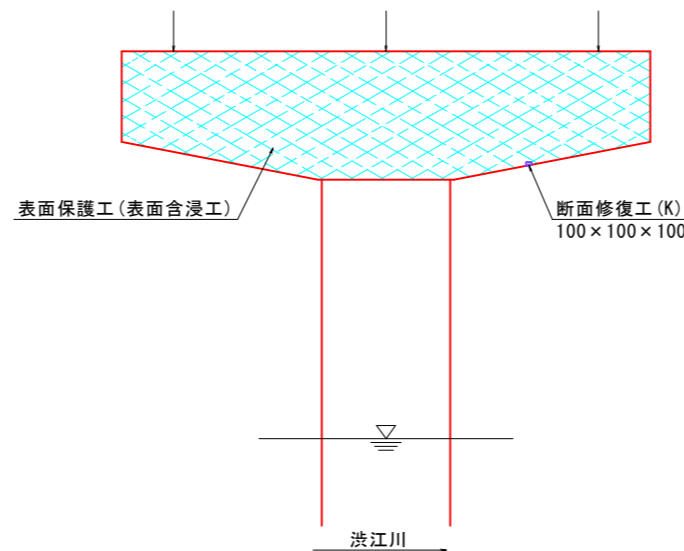
- 施工前に必ず現地寸法を確認し、補修範囲及び数量調査を協議のうえ施工すること。
- 現地寸法確認時、既設建築物との干渉があり補修が困難な箇所がみられる場合は、該当箇所の補修の方法および可否を協議すること。
- 施工時交通規制は可能な限り供用可能とすること。
- 品質規格表の項目については、施工条件等を勘案の上、必ずしも基準値を満足する必要がないものと判断される場合には、参考値として取り扱うことができるものとする。
- 再塗装に使用する材料は、保管に注意し、湿気、塵埃等から十分に保護すること。
- 現況の塗装に鉛化合物が含有しているため、塗装を行う前に塗膜剥離剤による処理を行い、廃棄物を湿潤化して回収すること。
- 素地調整による粉塵等が外部に漏れないように防護にて完全に密封するとともに、適切に廃棄すること。
- 可能な限り、水洗等にて塩分が50mg/m2以下になるまで除去すること。
- 素地調整終了後は同日中に必ず下塗りまたは補修塗りを行うこと。
- 当日塗装できなかった場合は、翌日改めて素地調整を行った後に塗装すること。
- 角部において面取りや曲面仕上げが行われていない箇所では、専用加工機等による曲面仕上げを行うとともに、先行塗装を実施すること。
- 再塗装施工完了後、残存研削材、粉塵などは、エアークリーンなどを入念に取り除き、橋梁の健全な環境を確保すること。
- 断面修復工のカッター工は現地確認の上、作業の有無を決定すること。再劣化防止のために、既設鉄筋の背面まで研り出すこと。
- コンクリートはつり部分の既設鉄筋には防錆処理を行うこと。防錆処理は既設鉄筋をワイヤーブラシでケレンし、防錆剤を塗布すること。防錆剤の種類はポリマーセメント系とすること。
- 断面修復工で重ね塗りを行う場合は、重ね塗りの時間間隔や断面修復部の凝結状態などを考慮して行うこと。
- 断面修復工は損傷箇所から100mm程度ずつ余裕を確保した断面で実施すること。
- 断面補修時、左官工法による左官作業は既設コンクリート面(はつり面)にプライマーを塗布し、空隙を残さないように施工すること。なお、かぶり不足箇所は厚塗りをするなど、かぶりを確認すること。
- 使用する断面修復材は、設計基準強度24N/mm2以上の強度の修復材を使用すること。
- 鉄筋が腐食している場合の補修では、次の点を特に注意すること。
  - 腐食した鉄筋のさびを完全に除去し、防錆剤を塗布すること。
  - 鉄筋の断面欠損が著しい場合には、新たに鉄筋(添え筋)を追加すること。
  - 損傷箇所近くの損傷していない箇所の鉄筋も腐食している場合は、この部分も含めて補修すること。
- 補修材を施工条件等により変更する場合は、発注者と協議を行うこと。

工事名	市道増生東盤谷線瑞穂橋補修工事			
図面名	瑞穂橋 補修図(その8) 橋台A1・A2			
縮尺	図示	図面番号		
作成年月日	令和 3 年 8 月			
課長	係長	照査	設計	製図
小 矢 部 市				

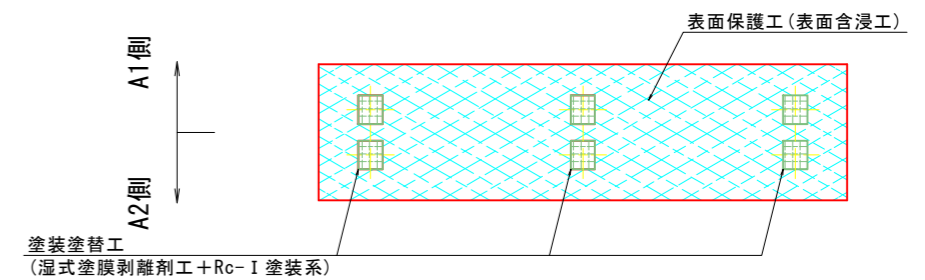
# 瑞穂橋 補修図(その9) 橋脚P1



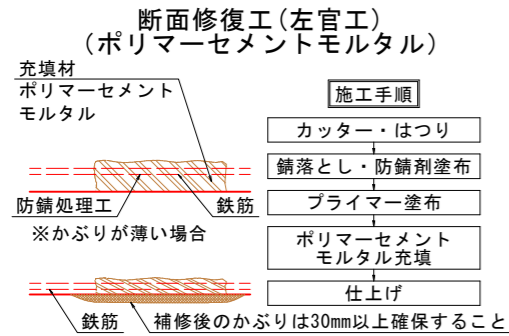
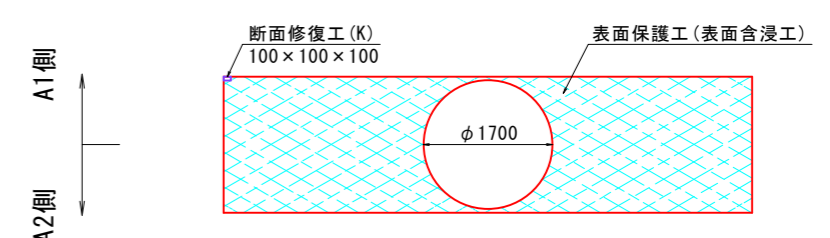
正面図 A2側 S=1:50



平面図 橋座面 S=1:50



平面図 梁見下げ図 S=1:50



## 塗装塗替工 Rc-I 塗装系(スプレー)

塗装工 施工手順	塗料名	使用量 (g/m <sup>2</sup> )	塗装間隔
素地調整	1種		4時間以内
防食下地	有機ジンクリッチペイント	600	1日~10日
下塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	240	1日~10日
下塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料中塗	170	1日~10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	140	1日~10日

## 凡例

- : 断面修復工(左官工)
- : 表面保護工(表面含浸工)
- : 塗装塗替工(Rc-I塗装系)

※図中アルファベット記号は、元の損傷を表す。  
K: 欠損

## 注記

- 施工前に必ず現地寸法を確認し、補修範囲及び数量調査を協議の上施工すること。
- 現地寸法確認時、既設建築物との干渉があり補修が困難な箇所がみられる場合は、該当箇所の補修の方法および要否を協議すること。
- 施工時交通規制は可能な限り供用可能とすること。
- 品質規格表の項目については、施工条件等を勘案の上、必ずしも基準値を満足する必要がないものと判断される場合には、参考値として取り扱うことができるものとする。
- 再塗装に使用する材料は、保管に注意し、湿気、塵埃等から十分に保護すること。
- 現況の塗装に鉛化合物が含有しているため、塗装を行う前に塗膜剥離剤による処理を行い、廃棄物を湿潤化して回収すること。
- 素地調整による粉塵等が外部に漏れないように防護にて完全に密封するとともに、適切に廃棄すること。
- 可能な限り、水洗等にて塩分が50mg/m<sup>2</sup>以下になるまで除去すること。
- 素地調整終了後は同日中に必ず下塗りまたは補修塗りを行うこと。  
当日塗装できなかった場合は、翌日改めて素地調整を行った後に塗装すること。
- 角部において面取りや曲面仕上げが行われていない箇所では、専用加工機等による曲面仕上げを行うとともに、先行塗装を実施すること。
- 再塗装施工完了後、残存研掃材、粉塵などは、エアークリーン機などを用いて取り除き、橋梁の健全な環境を確保すること。

- 断面修復工のカッター工は現地確認の上、作業の有無を決定すること。  
再劣化防止のために、既設鉄筋の背面まで研り出すこと。
- コンクリートはつり部分の既設鉄筋には防錆処理を行うこと。  
防錆処理は既設鉄筋をワイヤーブラシでケレンし、防錆剤を塗布すること。  
防錆剤の種類はポリマーセメント系とすること。
- 断面修復工で重ね塗りを行う場合は、重ね塗りの時間間隔や断面修復部の凝結状態などを考慮して行うこと。
- 断面修復工は損傷箇所から100mm程度ずつ余裕を確保した断面で実施すること。
- 使用する断面修復材は、設計基準強度24N/mm<sup>2</sup>以上の強度の修復材を使用すること。
- 断面補修時、左官工法による左官作業は既設コンクリート面(はつり面)にプライマーを塗布し、空隙を残さないように施工すること。  
なお、かぶり不足箇所は厚塗りをするなど、かぶりを確認すること。
- 鉄筋が腐食している場合の補修では、次の点を特に注意すること。  
・腐食した鉄筋のさびを完全に除去し、防錆剤を塗布すること。  
・鉄筋の断面欠損が著しい場合には、新たに鉄筋(添え筋)を追加すること。  
・損傷箇所近くの損傷していない箇所の鉄筋も腐食している場合は、この部分も含めて補修すること。
- 補修材を施工条件等により変更する場合は、発注者と協議を行うこと。

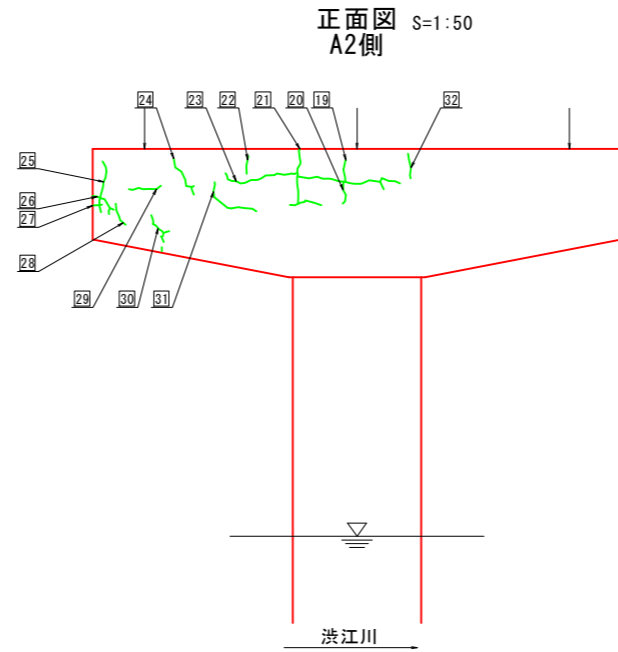
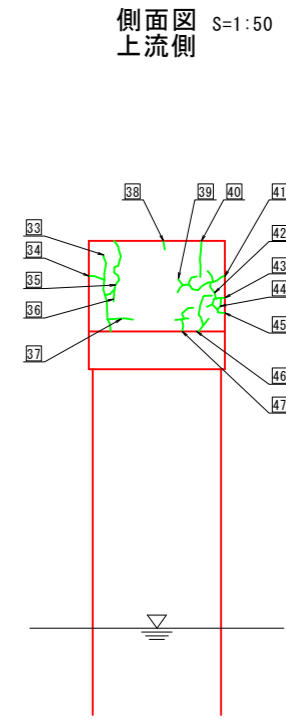
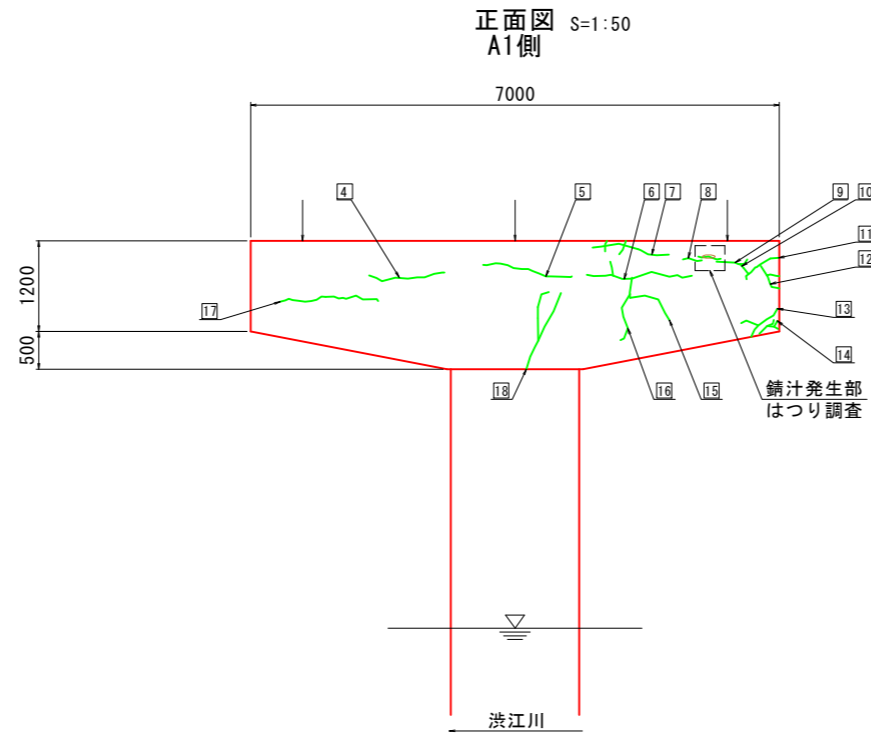
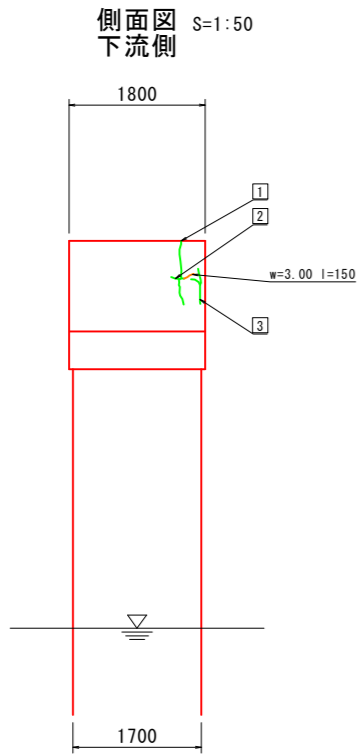
## 補修数量(橋脚P1)

項目	数量	単位
断面修復工	0.065	m <sup>3</sup>
湿式塗膜剥離剤工	(※)	m <sup>2</sup>
塗装塗替工(Rc-I)	(※)	m <sup>2</sup>
表面保護工(表面含浸工)	36.02	m <sup>2</sup>

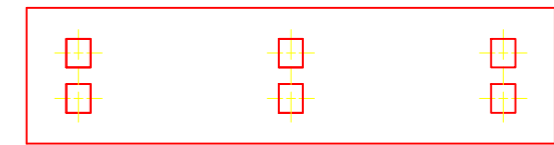
(※)上部工下面の同工種数量に含む

工事名	市道増生東盤谷線瑞穂橋補修工事			
図面名	瑞穂橋 補修図(その9) 橋脚P1			
縮尺	図示	図面番号		
作成年月日	令和 3 年 8 月			
課長	係長	照査	設計	製図
小矢 部 市				

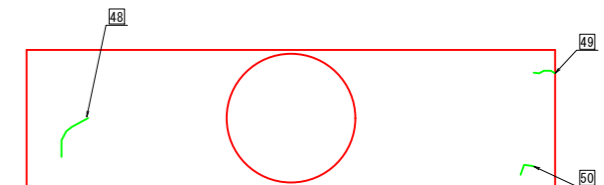
# 瑞穂橋 補修図(その10) 橋脚P1(ひびわれ補修工数量図)



平面図 橋座面 S=1:50



平面図 梁見下げ図 S=1:50



**ひびわれ注入工 (0.20mm ≤ W)**

1	w=0.20	l=500
2	w=0.20	l=550
3	w=0.20	l=650
4	w=0.20	l=1050
5	w=0.20	l=1200
6	w=0.20	l=1650
7	w=0.20	l=1400
8	w=0.20	l=300
9	w=0.20	l=450
10	w=0.20	l=200
11	w=0.20	l=550
12	w=0.20	l=500
13	w=0.20	l=800
14	w=0.20	l=500
15	w=0.20	l=950
16	w=0.20	l=700
17	w=0.30	l=1350
18	w=0.20	l=1850
19	w=0.20	l=350
20	w=0.20	l=300
21	w=0.20	l=1150
22	w=0.35	l=250
23	w=0.25	l=3200
24	w=0.20	l=250
25	w=0.30	l=700
26	w=0.25	l=450
27	w=0.20	l=150
28	w=0.20	l=350
29	w=0.20	l=450
30	w=0.25	l=600
31	w=0.25	l=800
32	w=0.20	l=350
33	w=0.20	l=1050
34	w=0.60	l=200
35	w=0.30	l=900
36	w=0.20	l=150
37	w=0.20	l=350
38	w=0.20	l=100
39	w=0.40	l=650
40	w=0.40	l=500
41	w=0.20	l=600
42	w=0.30	l=250
43	w=0.30	l=300
44	w=0.30	l=200
45	w=0.20	l=1650
46	w=0.50	l=200
47	w=0.20	l=600
48	w=0.50	l=1600
49	w=0.30	l=200
50	w=0.30	l=300

**ひびわれ充填工 (1.00mm ≤ W)**  
w=3.00 l=150

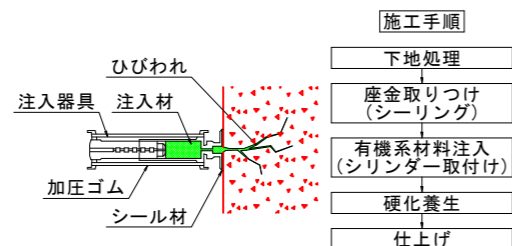
**補修数量(橋脚P1 ひびわれ補修工)**

項目	数量	単位
ひびわれ注入工	34.30	m
ひびわれ充填工	0.15	m

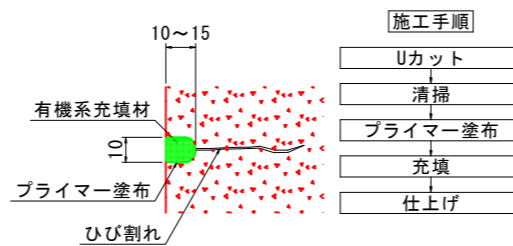
**凡例**

- : (1.00 ≤ W 充填工)
- : (0.20 ≤ W 注入工)

**ひびわれ注入工**  
(ひびわれ幅 0.20mm ≤ W)



**ひびわれ充填工**  
(ひびわれ幅 1.00mm ≤ W)



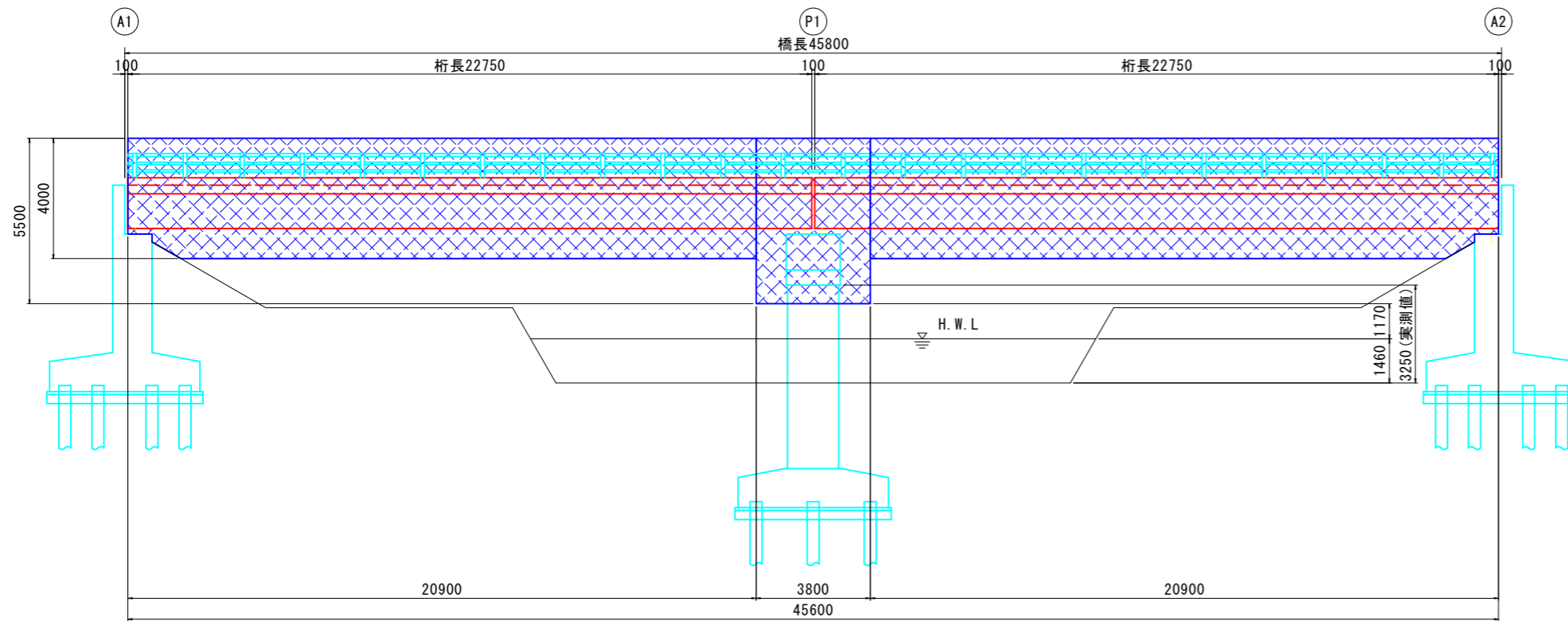
**注記**

- ひびわれ補修工は、ひびわれ幅0.20mm以上を対象としている。なお、ひびわれに遊離石灰が詰まっており注入できない箇所は補修対象外としている。
- ひびわれ注入工は、ひびわれ幅の大小や施工条件により他工法(ひびわれ充填工等)に変更が必要な場合は、発注者と協議を行うこと。
- 補修材を施工条件等により変更する場合は、発注者と協議を行うこと。
- 錆汁を伴うひびわれが発生している箇所において、はつり調査を行い、内部鉄筋の腐食状態や腐食範囲を現地確認し、発注者と協議の上、適切な補修方法(ひびわれ補修工、断面修復工)を選定すること。
- ひびわれ補修工の数量は、既設保護塗装の表面上での調査計上数量である。既設保護塗装の表面下において新たなひびわれが見られる場合があるため、塗装剥離後は必ず現地再検測を行い、改めて数量計上すること。

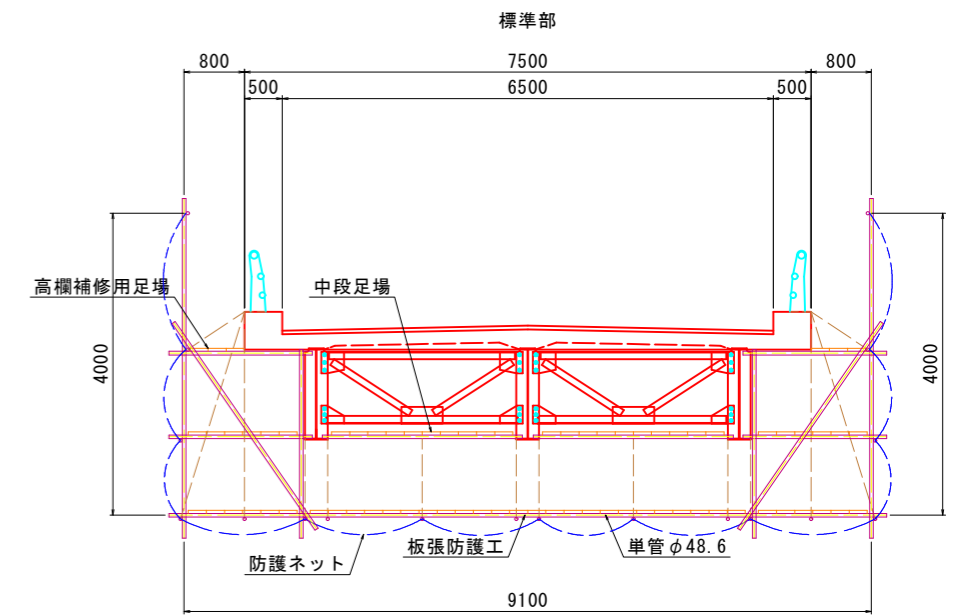
工事名	市道増生東壺谷線瑞穂橋補修工事		
図面名	瑞穂橋 補修図(その10) 橋脚P1(ひびわれ補修工数量図)		
縮尺	図示	図面番号	
作成年月日	令和 3 年 8 月		
課長	係長	照査	設計 製図
小矢部市			

# 瑞穂橋 補修図(その11) 足場参考図

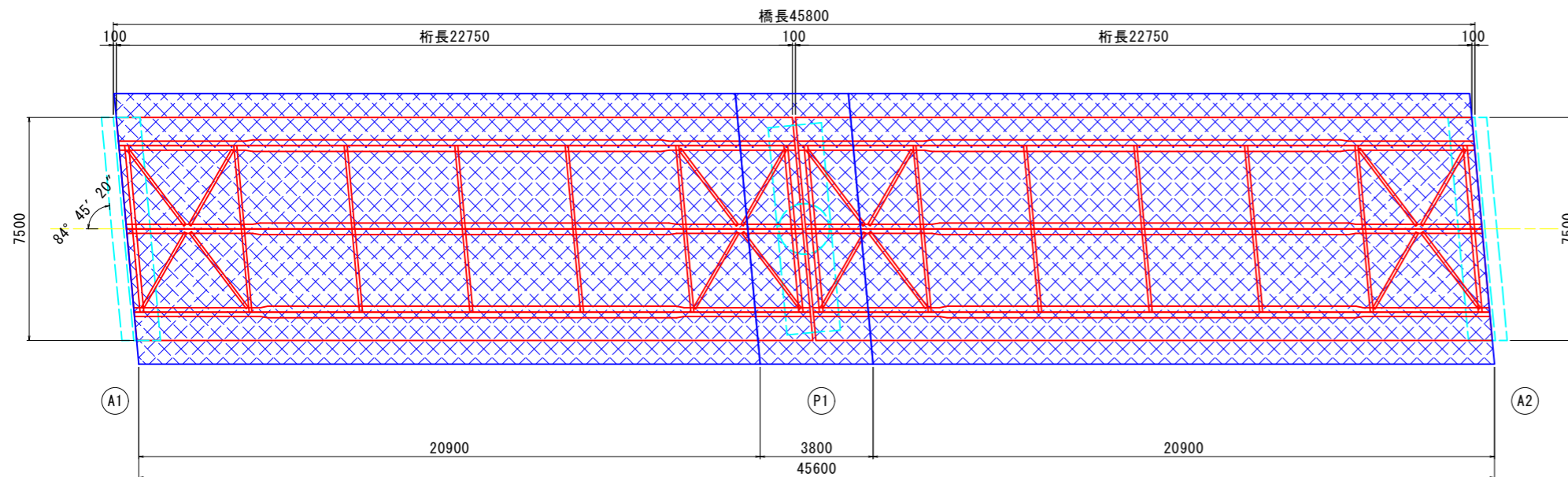
側面図 S=1:100



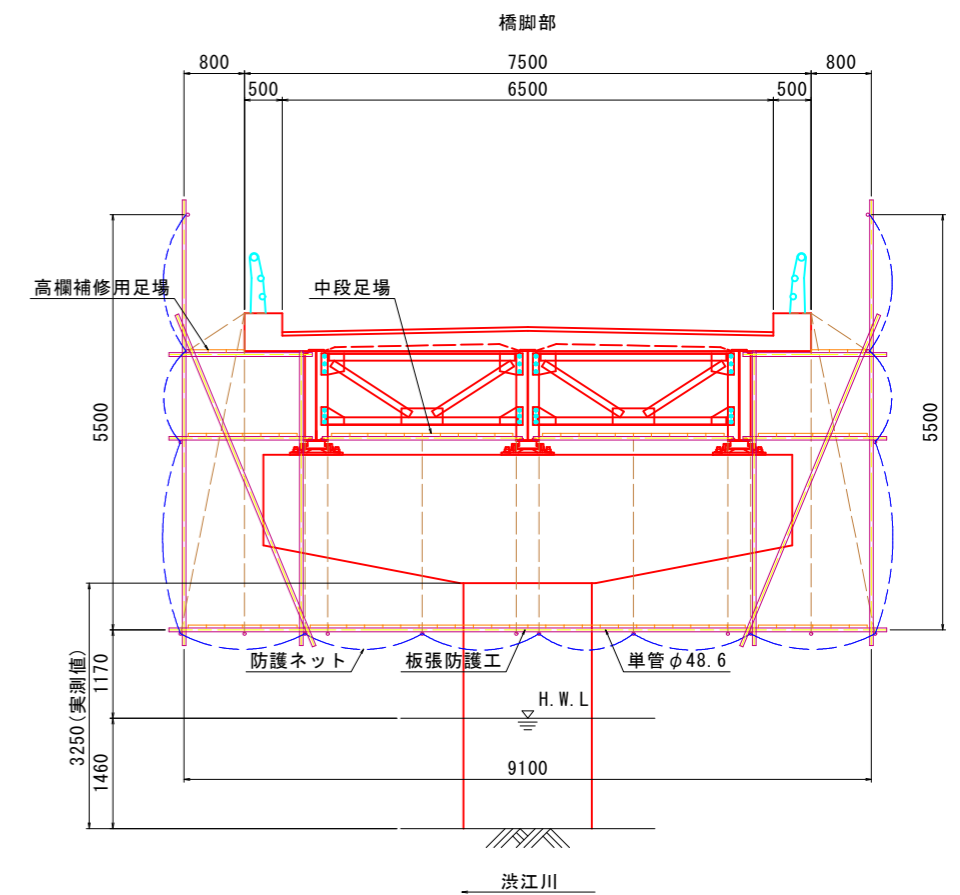
断面図 S=1:50



平面図 S=1:100



断面図 S=1:50



→ 渋江川

**足場数量**

高所作業車	3日+3日=6日(組+払)
吊足場	7.50×20.90×2=313.50=314m <sup>2</sup>
吊足場(橋脚用)	7.50×3.80=28.50=29m <sup>2</sup>
高欄補修用足場	0.80×45.60×2=72.96=73m <sup>2</sup>
湿式塗膜剥離剤工用養生設備工	7.50×45.60=342.00=342m <sup>2</sup>

**※注意事項**

1. 環境に配慮して防護工を設置すること。
2. 労働安全衛生法を遵守すること。
3. 必ず非出水期(11月~5月)に施工を行うこと。
4. 計画最高水位(1.46m)は、近隣の渋江川下御亭橋水位観測所における非出水期(11月~5月)の過去5年間の最大水位実績値である。この水位に干渉しないよう足場を仮設すること。
5. 悪天候等による急な増水によって、橋脚部等で水位と干渉する可能性が出た場合は、施工を中断し、干渉の恐れのある足場部分を撤去すること。この場合、橋梁点検車等での施工を検討すること。

工事名	市道増生東雲谷線瑞穂橋補修工事
図面名	瑞穂橋 補修図(その11) 足場参考図
縮尺	図示 図面番号
作成年月日	令和 3 年 8 月
課長	係長 照査 設計 製図
小矢部市	